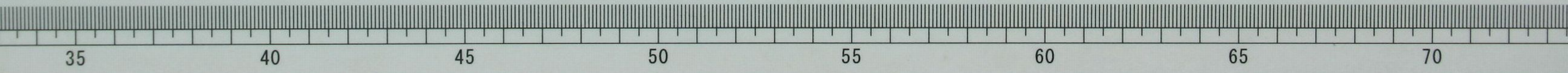


大匠
繪樣
雜工
雛形
上

知
22

多
1910
1



予嘗の應じて集留すは
 品を規矩彫刻人の物物竹木
 花多對生葉を以てて近家の
 必用一切漏れなく難し
 書いし如く是の業は
 近道の業の如く

漢大和の乾國誌



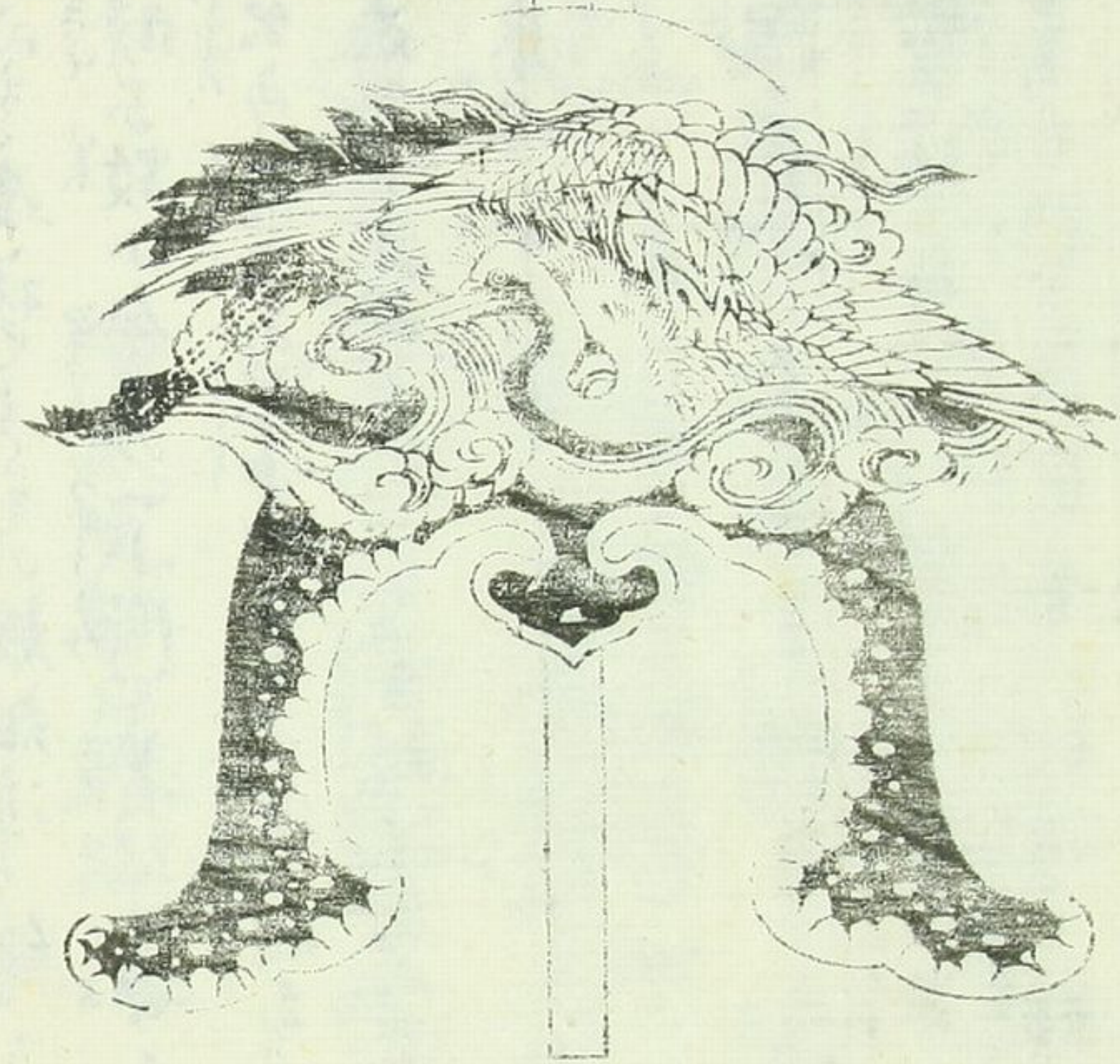
後叙

落合範圍を數年工匠の道に
 心を盡すべく規矩準繩を
 曉ふ故小令の「小冊」著して世に
 公而近家の規矩準繩の道に明か
 するに在りしを「實録」撰し之を
 高橋君と名づけたる數巻ありは
 小冊の續編を「編纂」撰し之を
 指して「實録」の續編と稱す
 世に遺るるは「實録」の一巻
 美世打が「匠家此規矩準繩
 小冊」と稱すに誌す

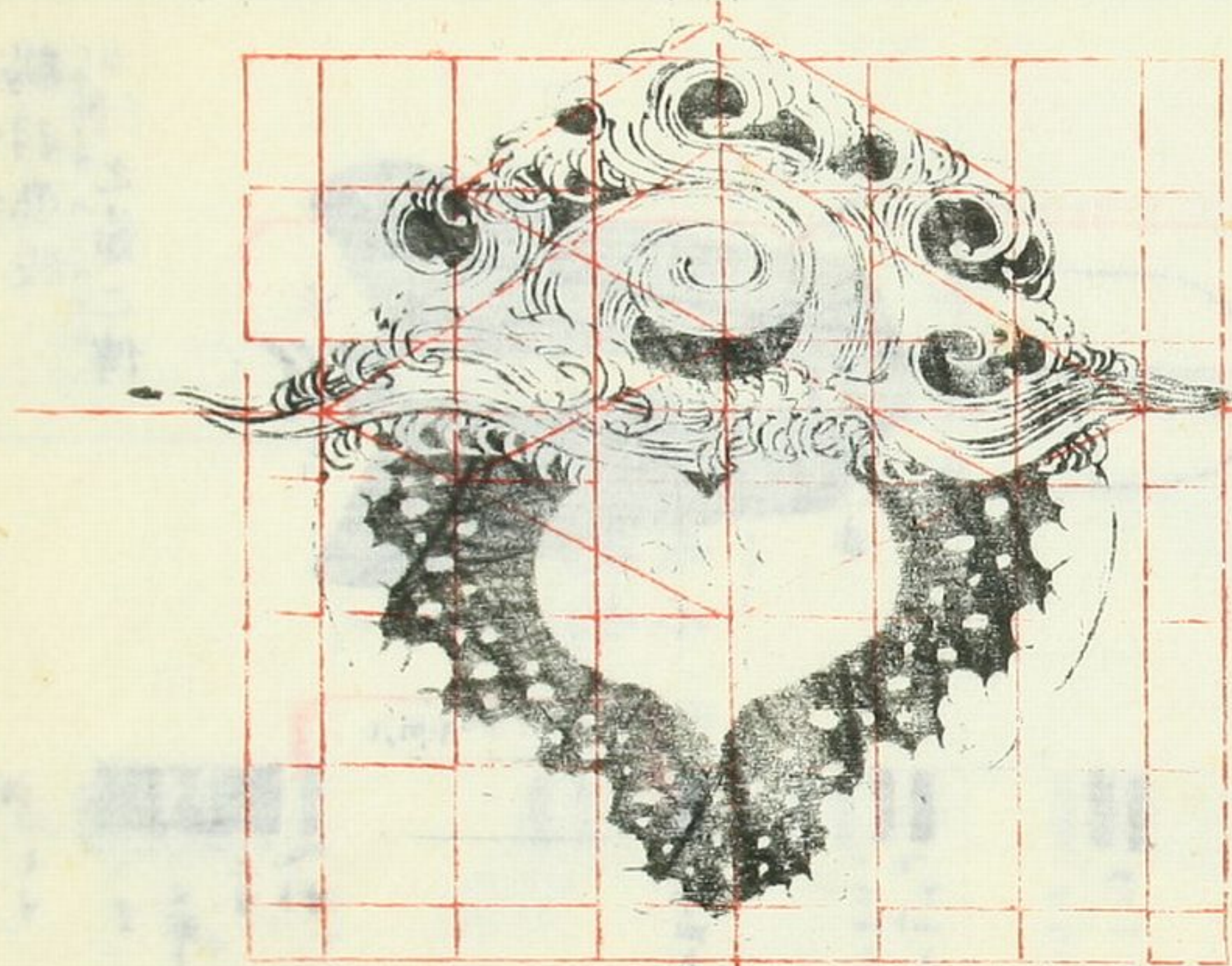
漢大和の乾國誌
 後叙



龜
鏑
矢

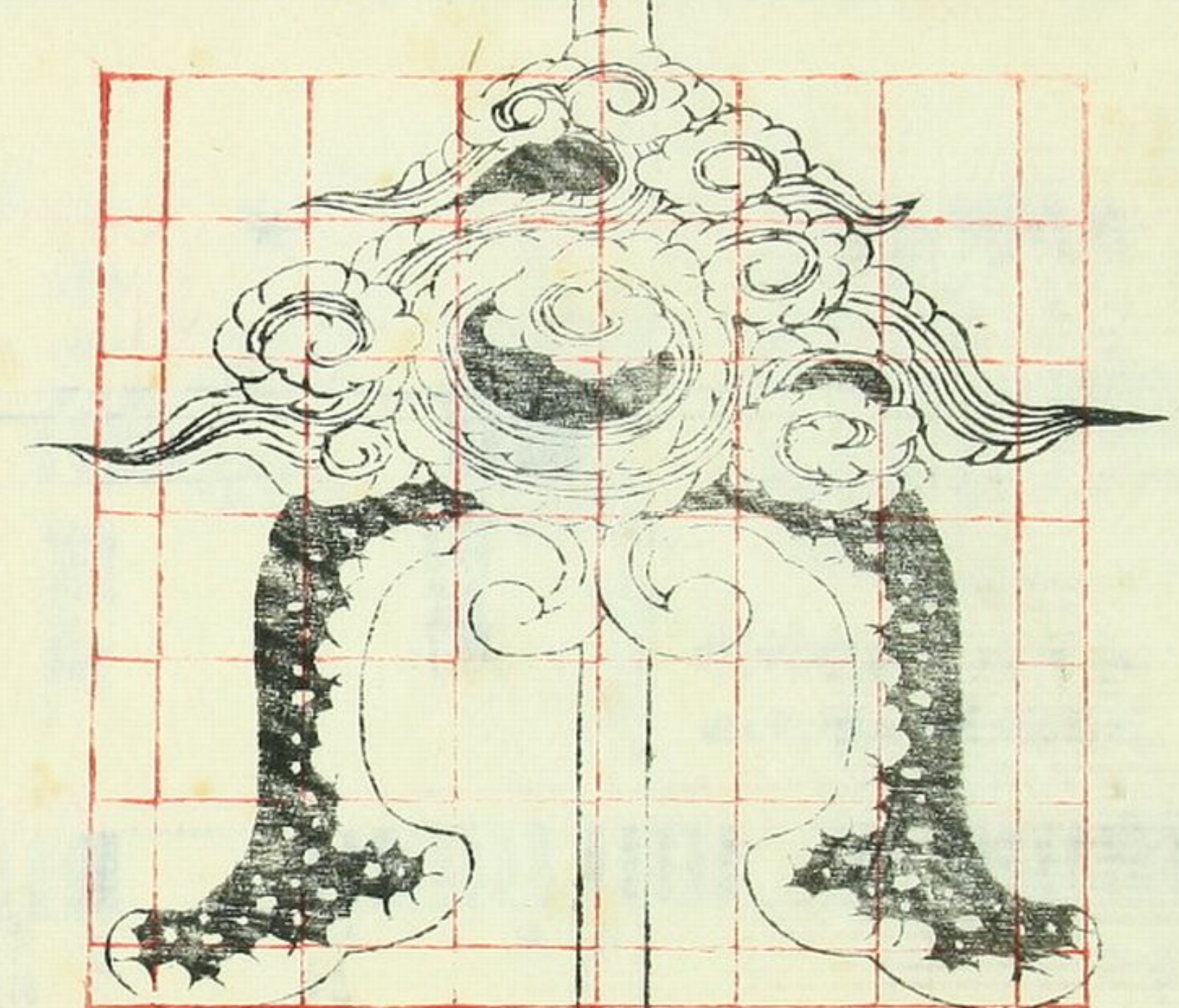


鶴
雁
股



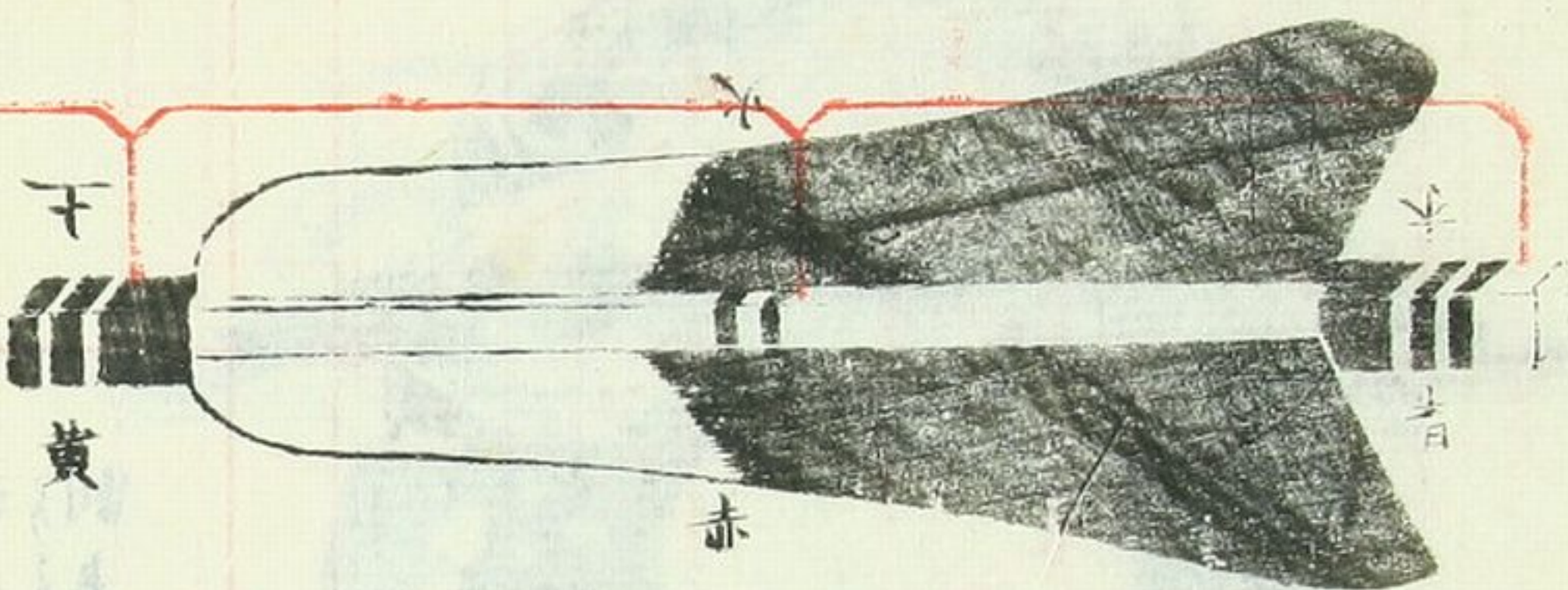
浪鏽矢

羽之長ウ朱引之通
割鳥入可シ



雲馬股

陰陽之弓女夫小用
 鶴羽爲股
 五行之節之傳



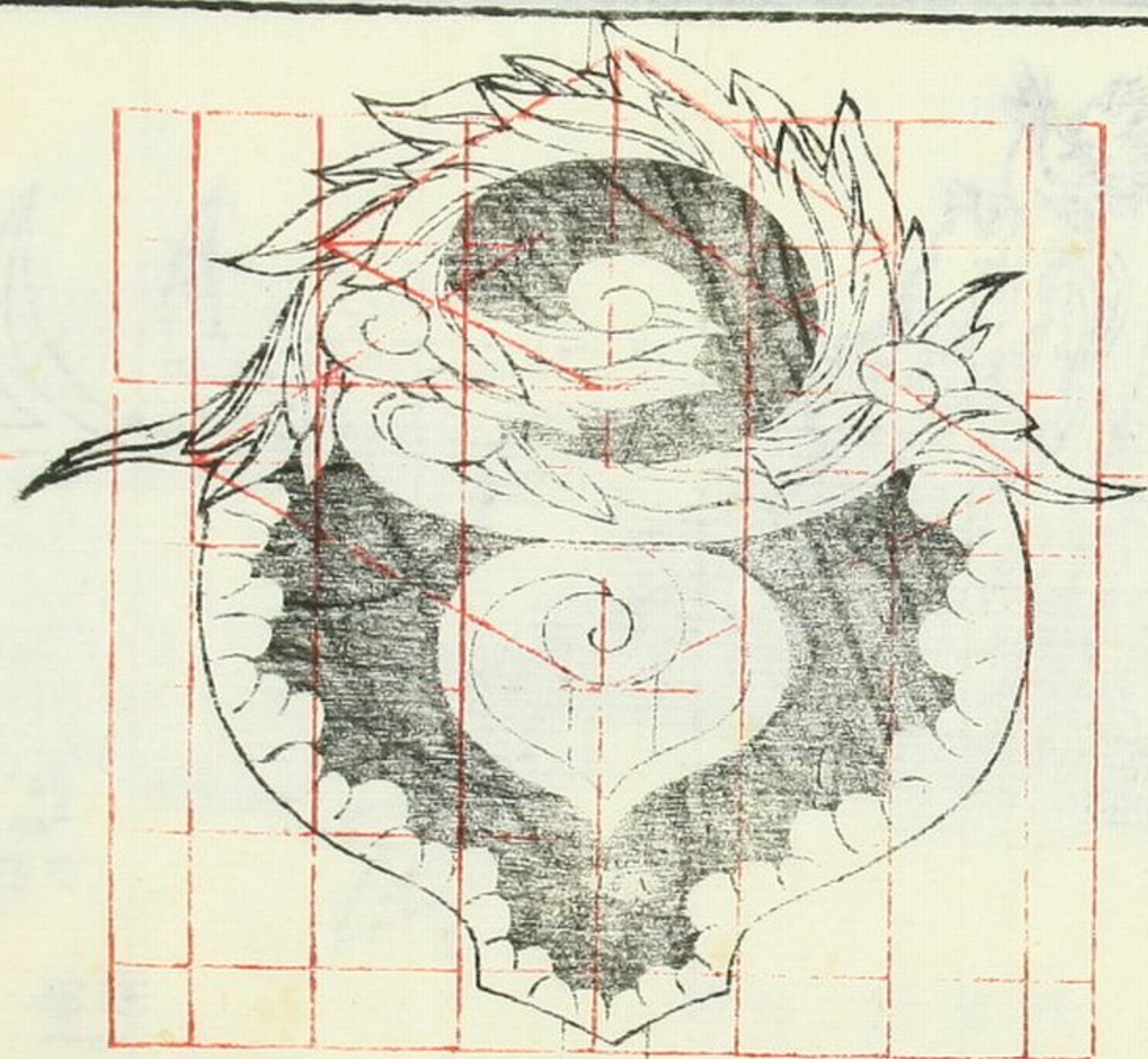
一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



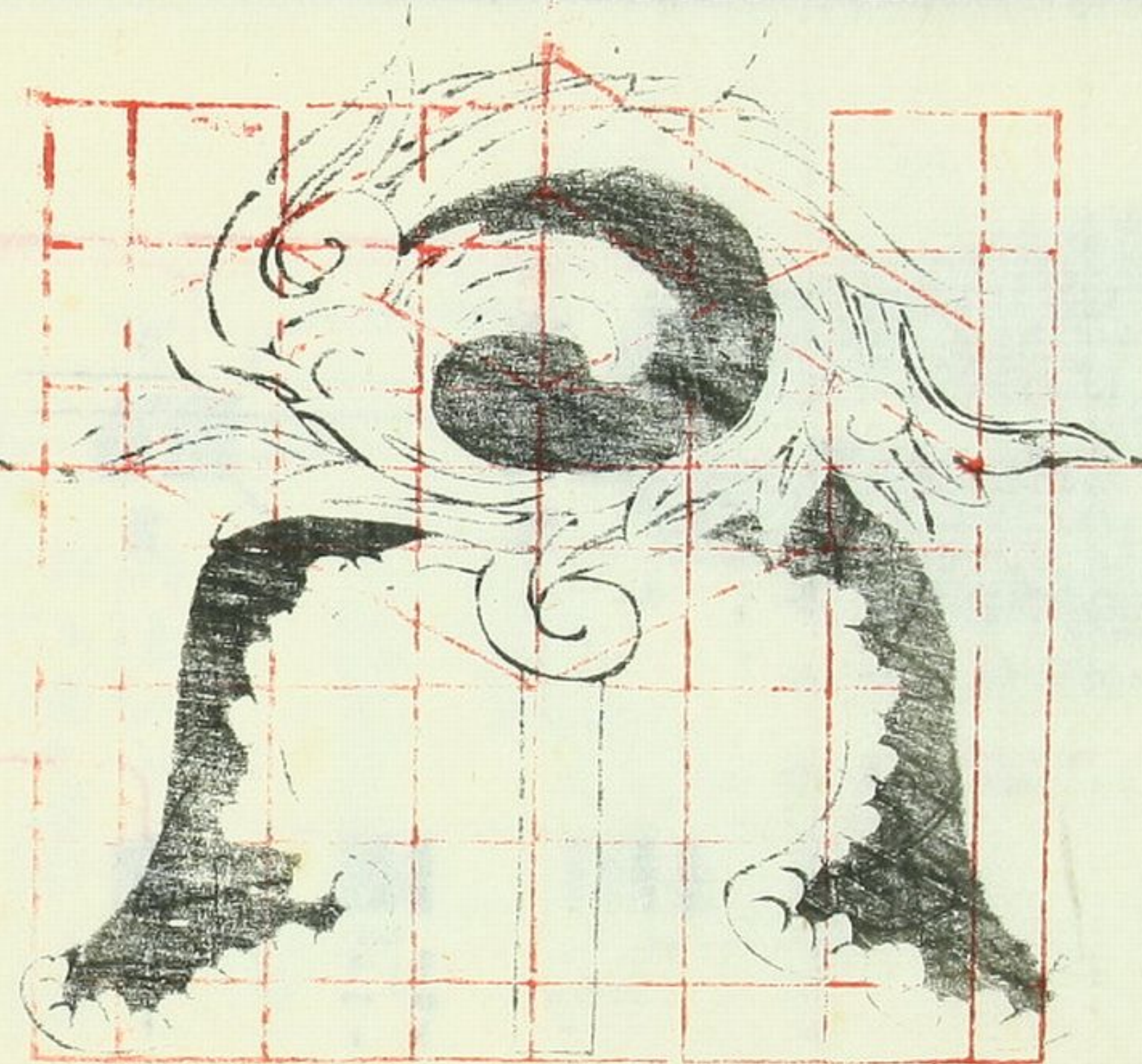
弓矢六作八
 一弓長一丈五尺
 一矢長一丈五尺



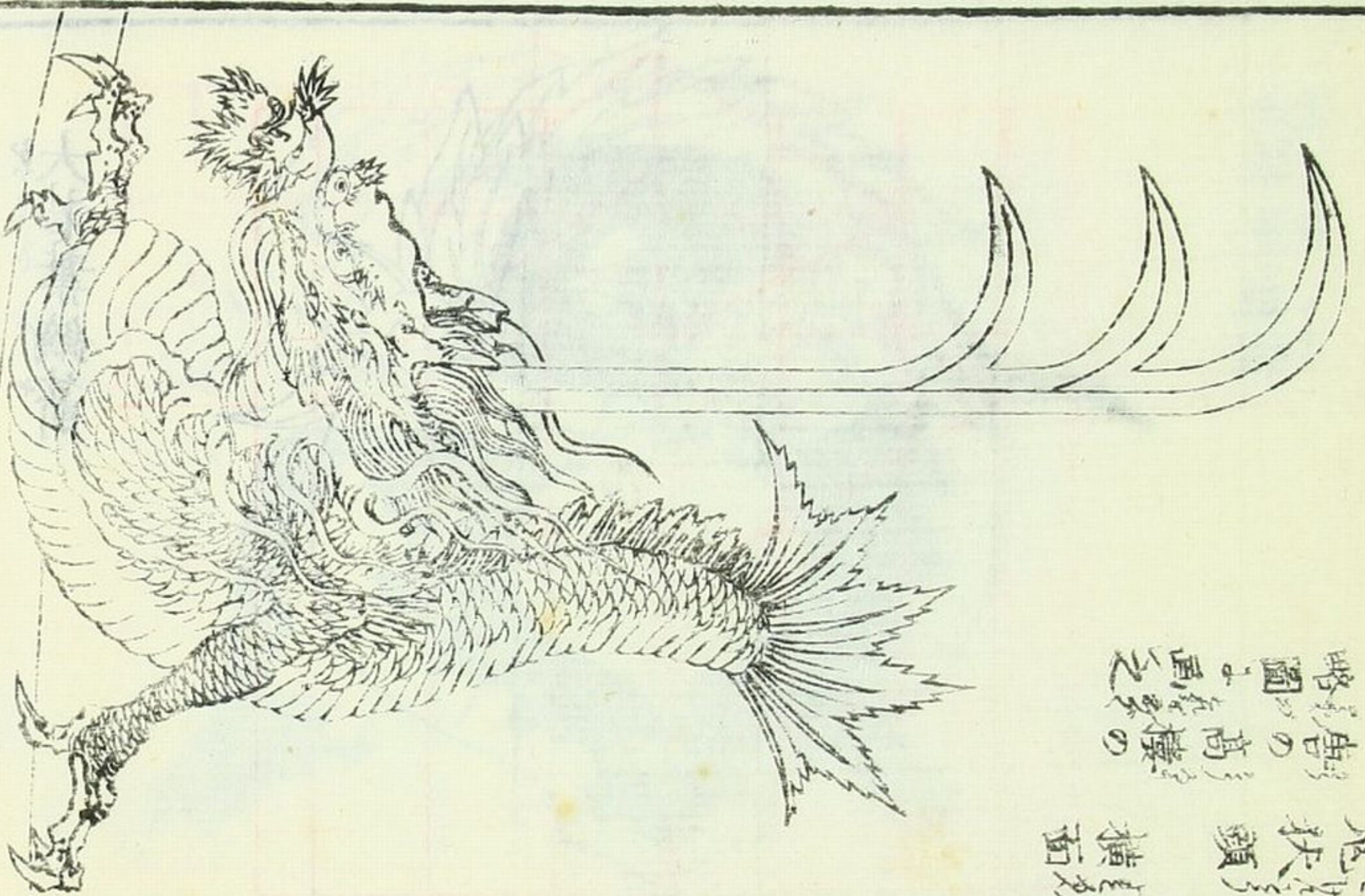
元



大若葉鏑箭

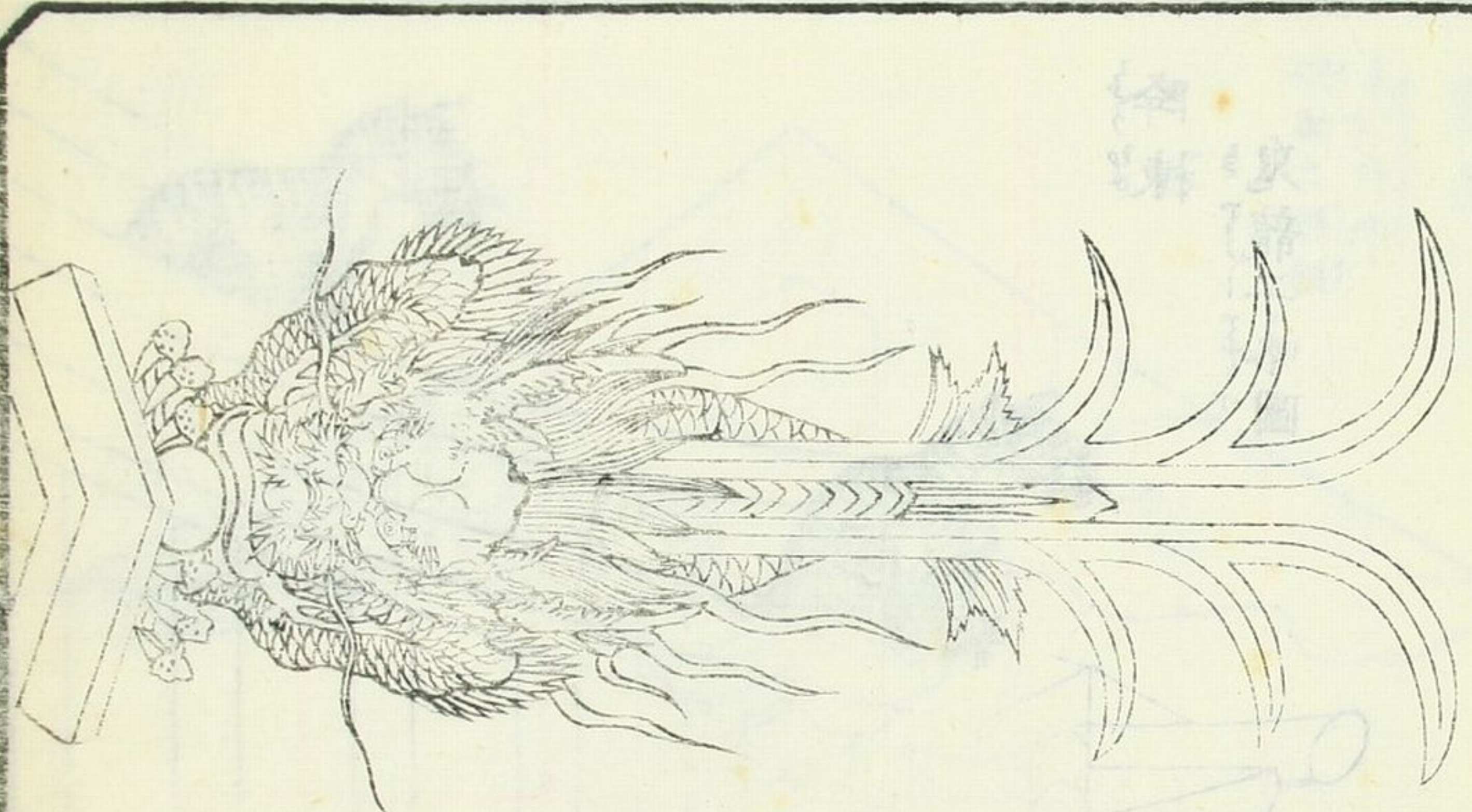


大若葉鷹股



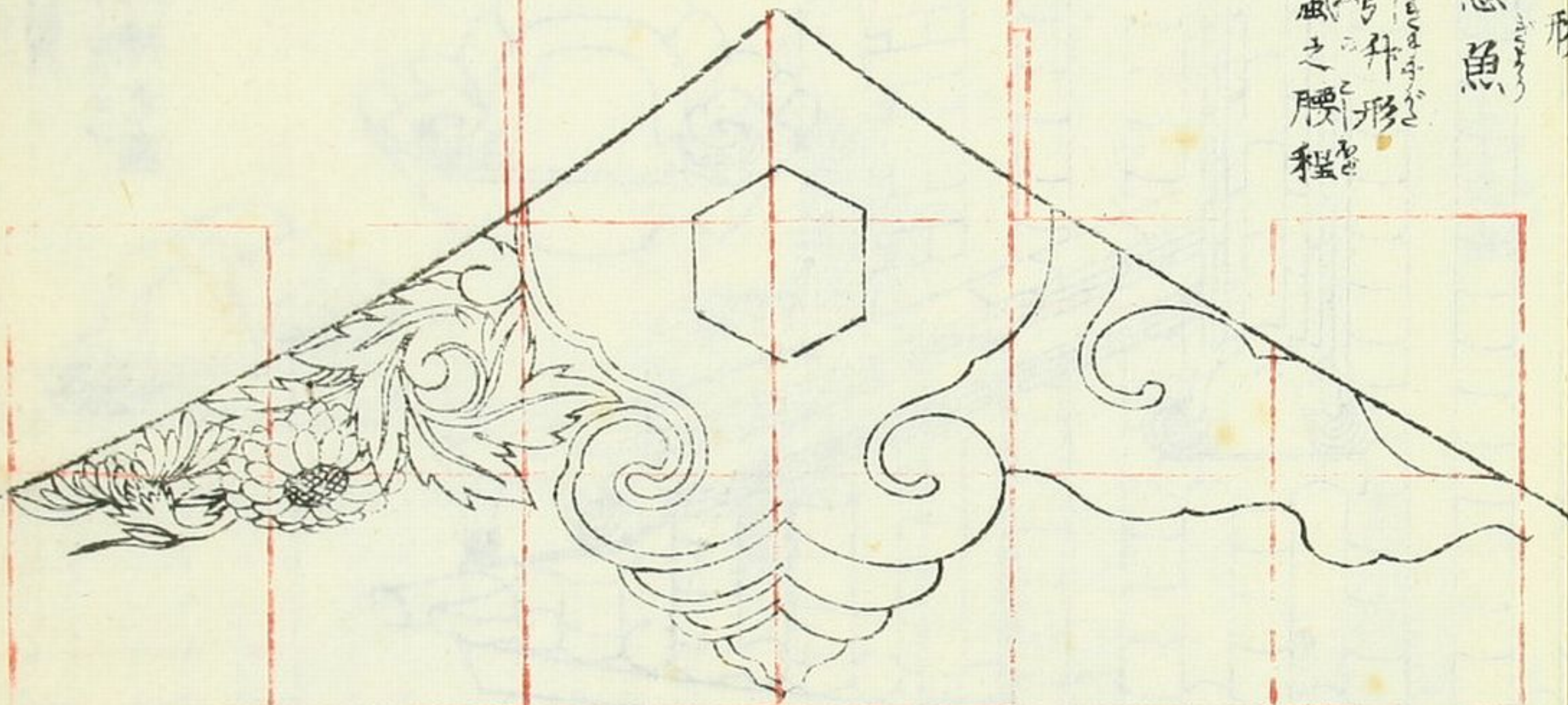
鬼状頭 横面

唐の高樓の
略圖の存在を多之

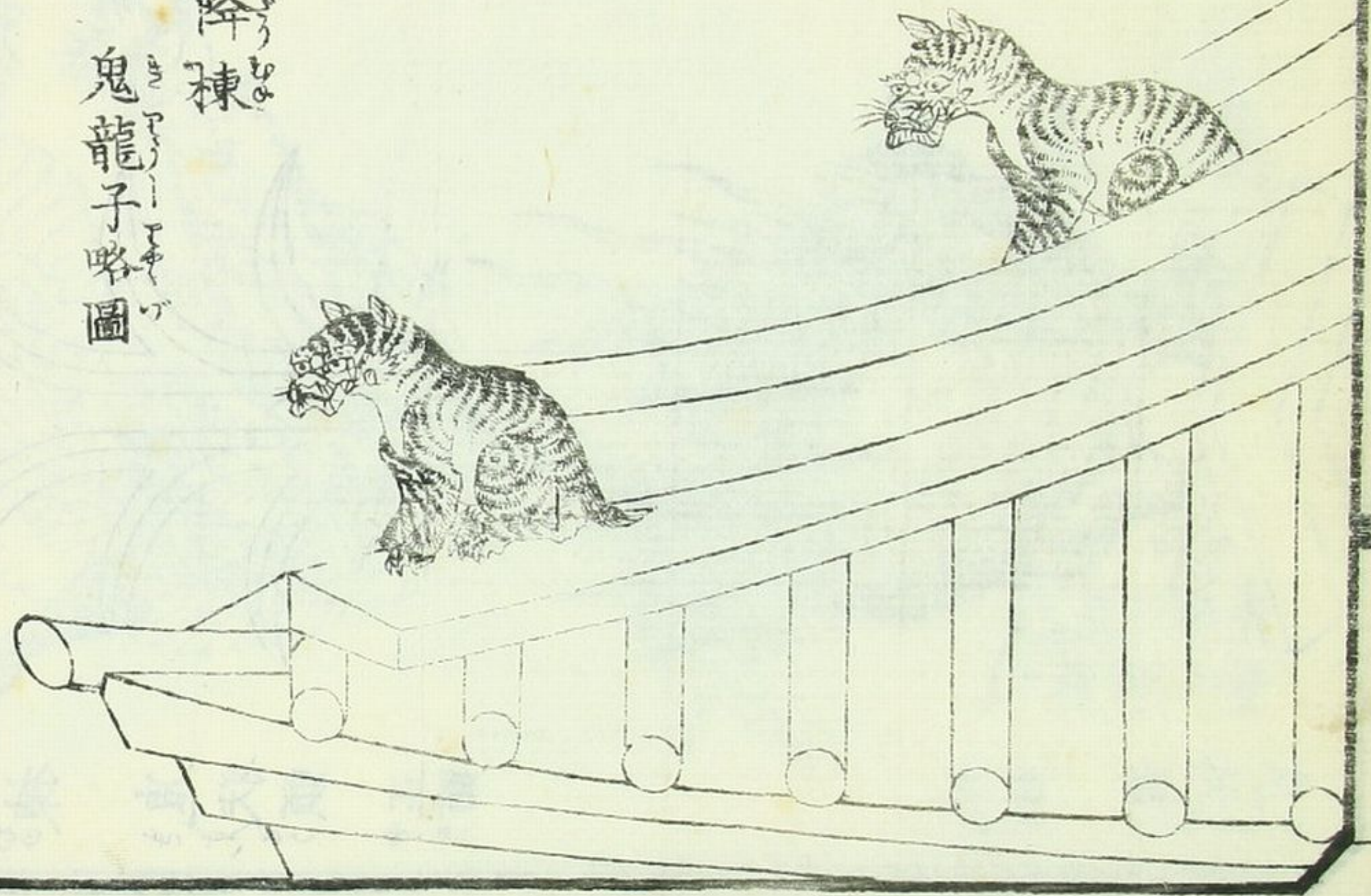


唐形大棟
鬼状頭 正面

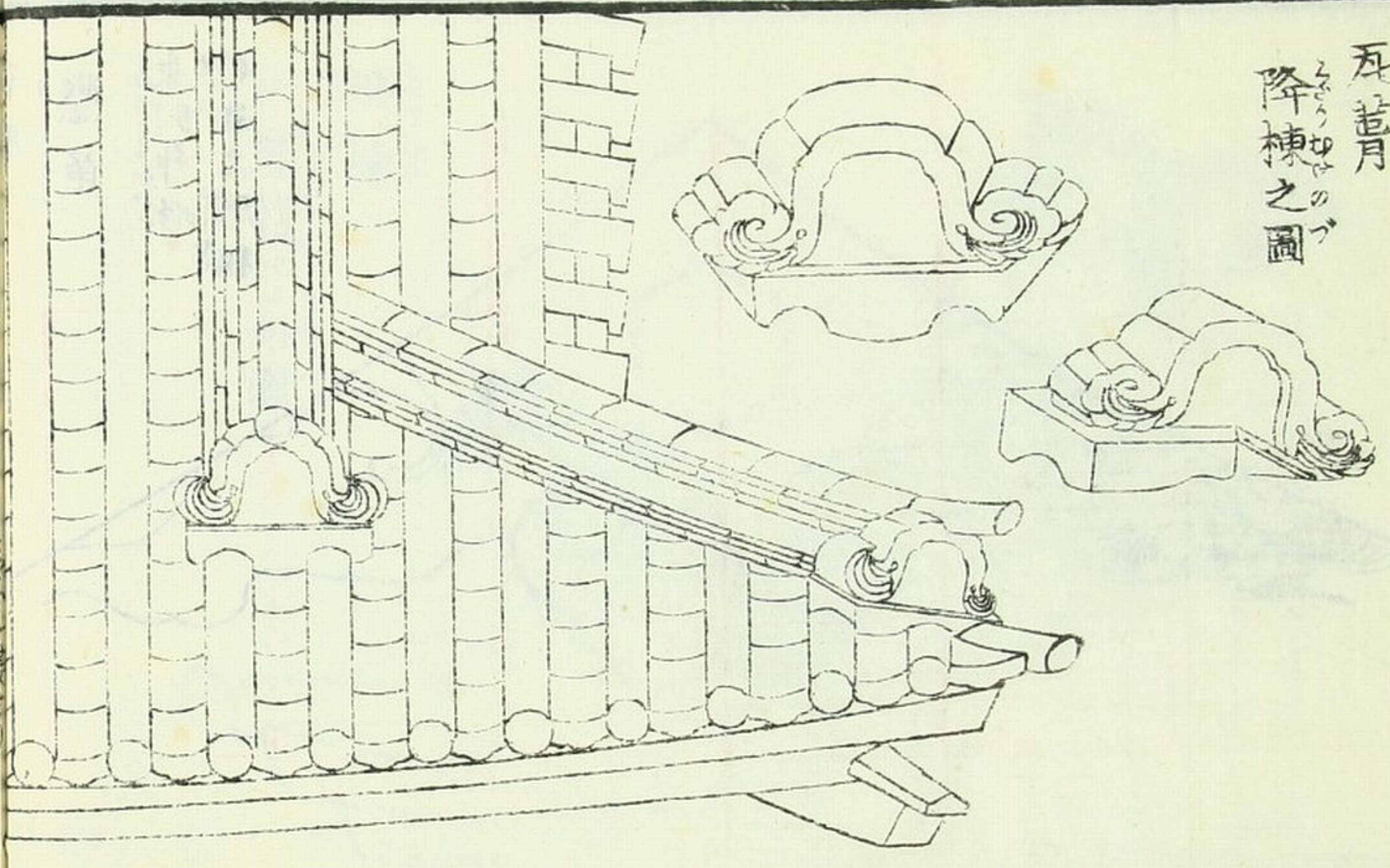
古形
懸魚
朱
破風之腰程



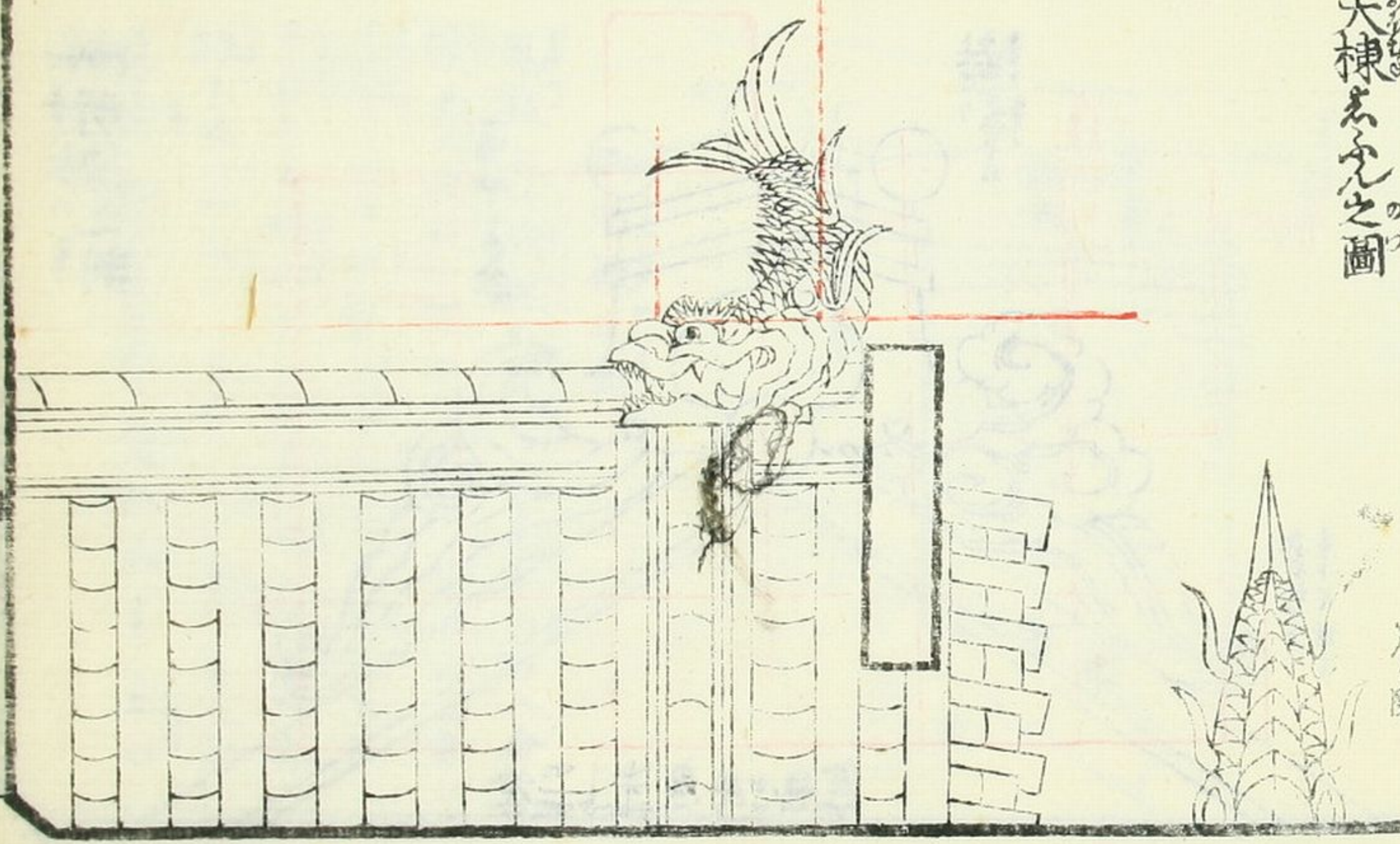
降棟
鬼龍子略圖



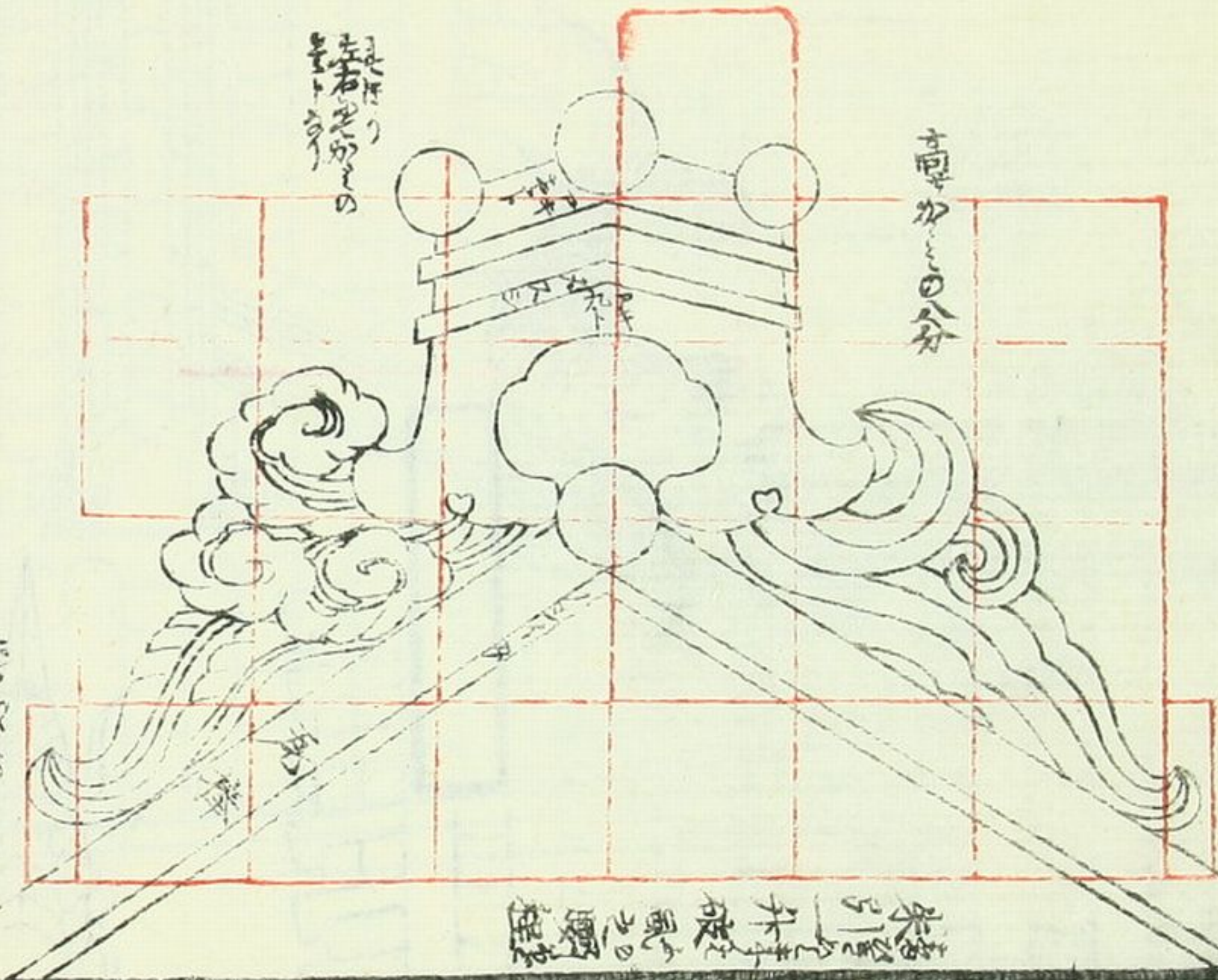
瓦葺
降棟之圖



大棟
木杵之圖



御所棟之割

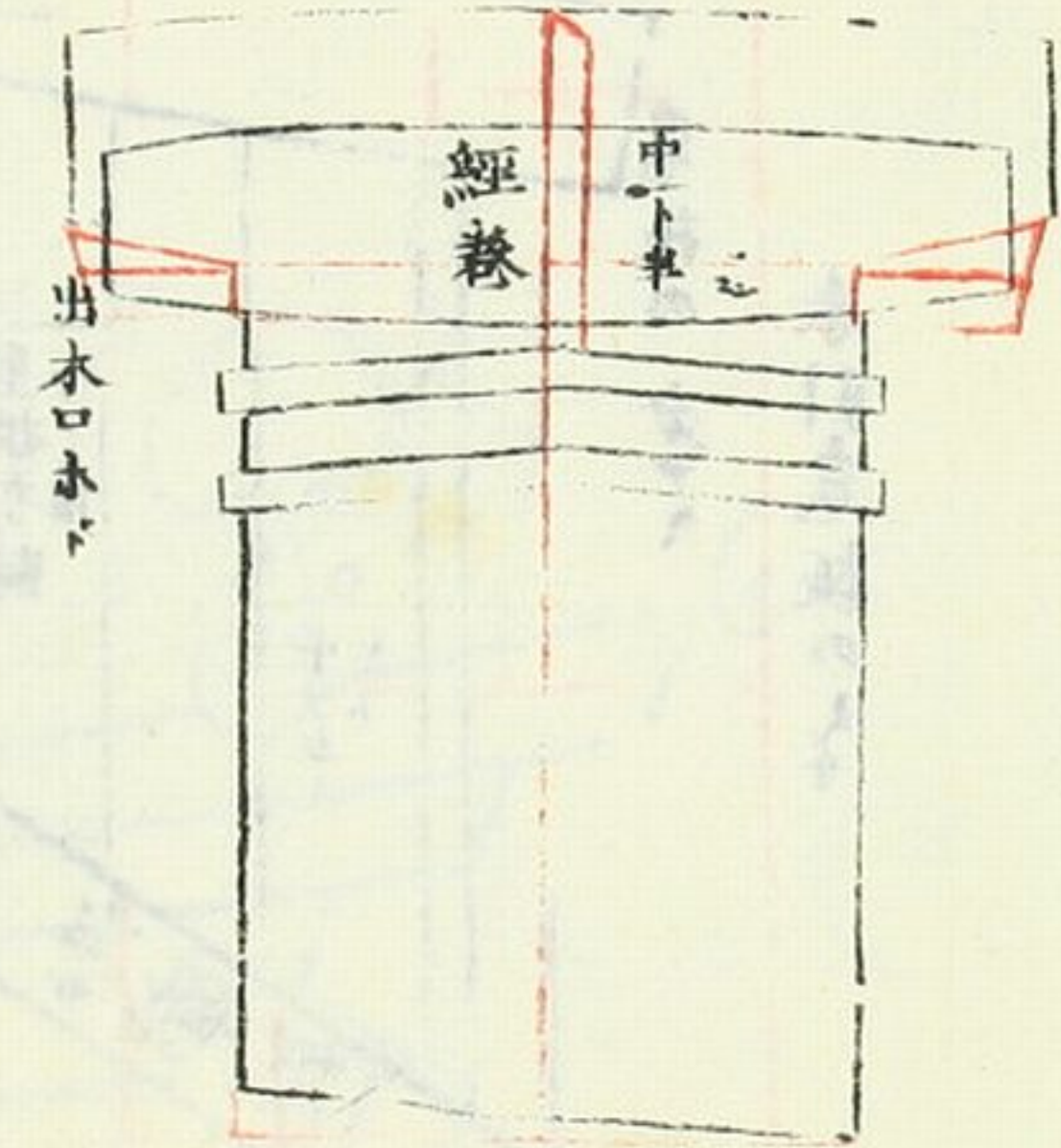


左石切しのまじり

高き方の分

御所棟之割

御所棟之割

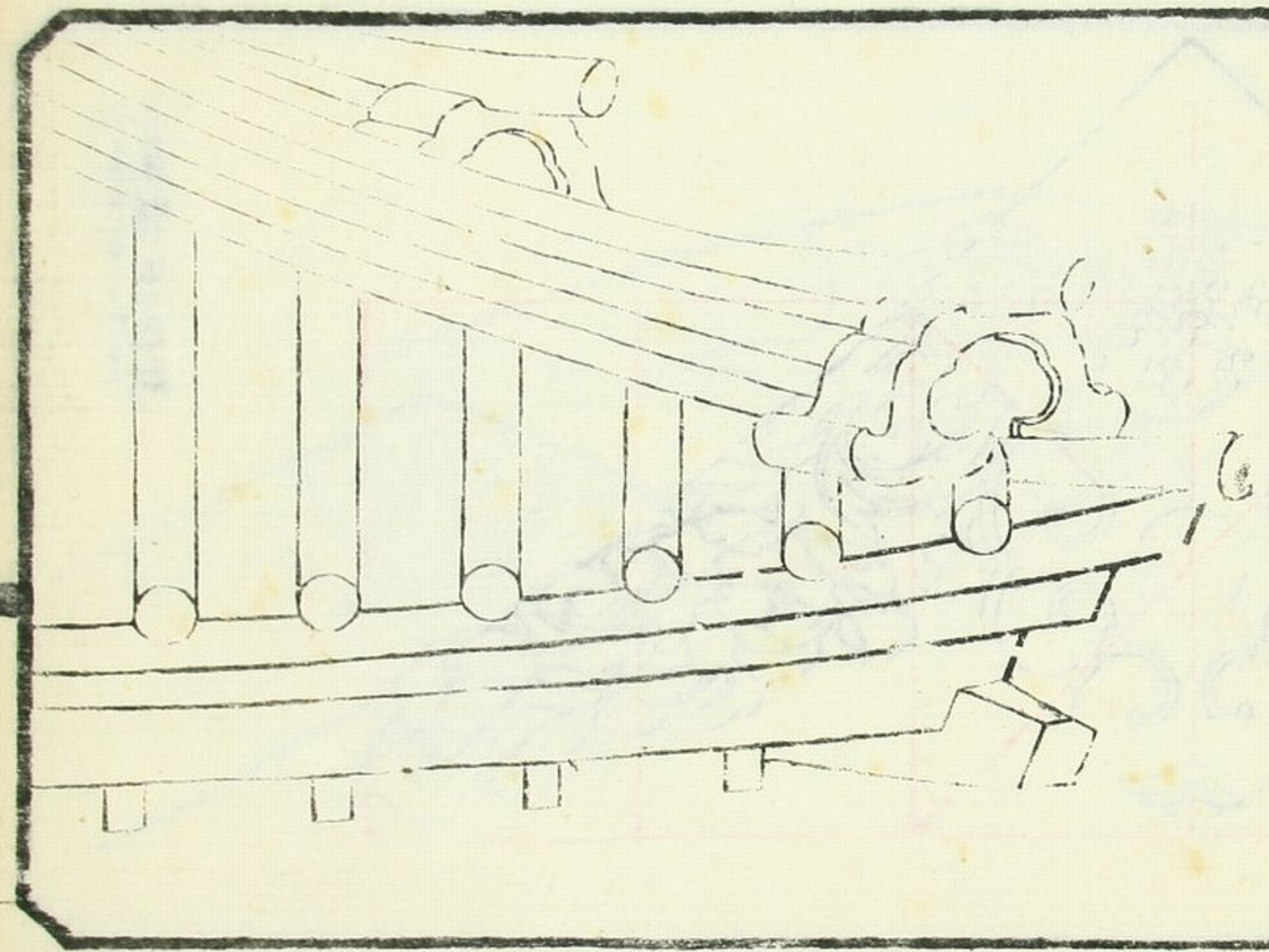


出木口ホド

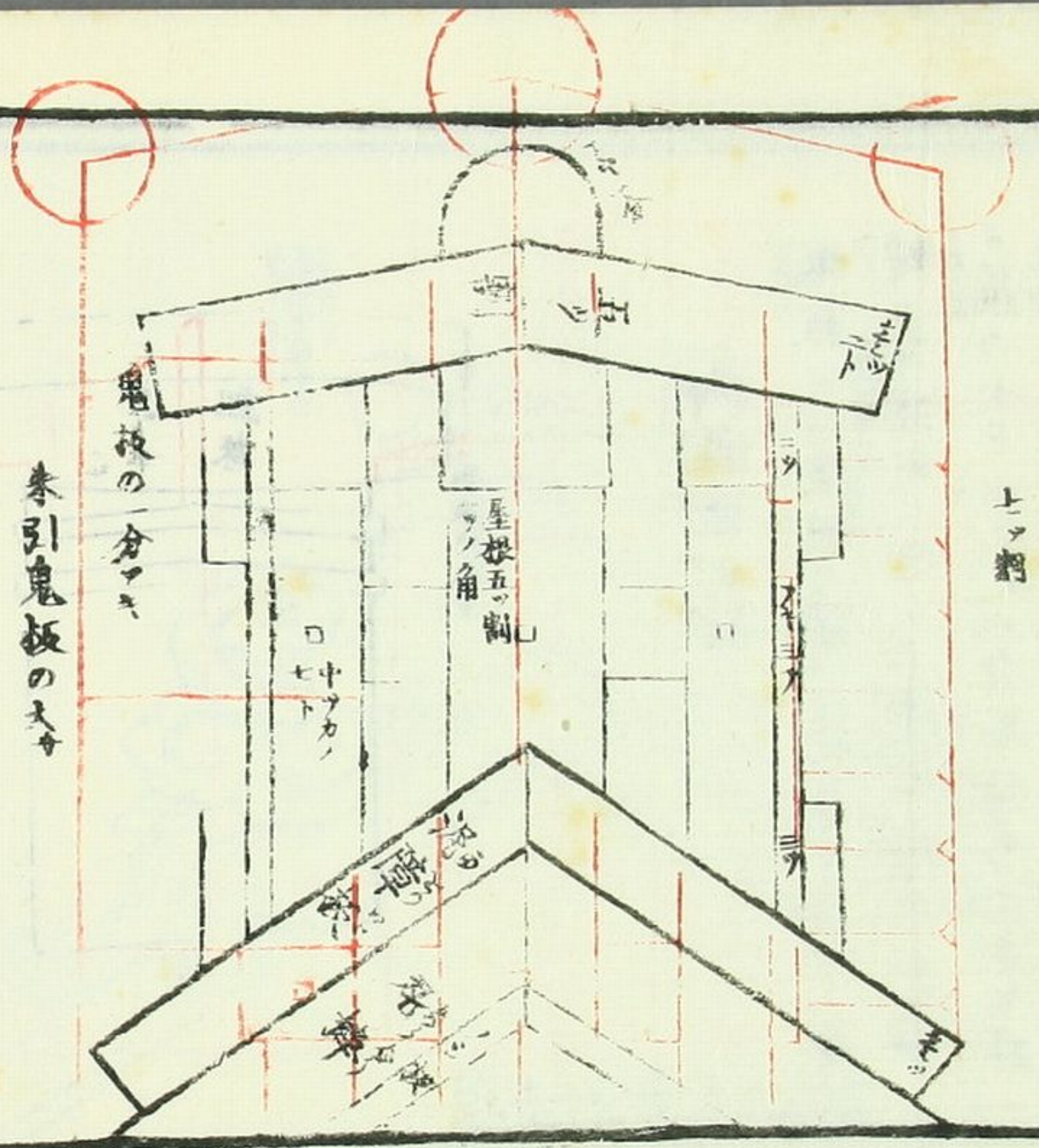
中下半

経巻

鬼板大り波風の腰ニツ出高サ巾の八分
 鏡大波風の腰ニツ出高サ巾の五分
 メ筋の大サ巾ニツ八分取厚サニツ五分
 半分なり明巾の一分上の明メ筋ニツ也
 経巻死上の木口一寸より下の木口一寸九分
 中一分半はより鬼板面より木口
 ほど出也

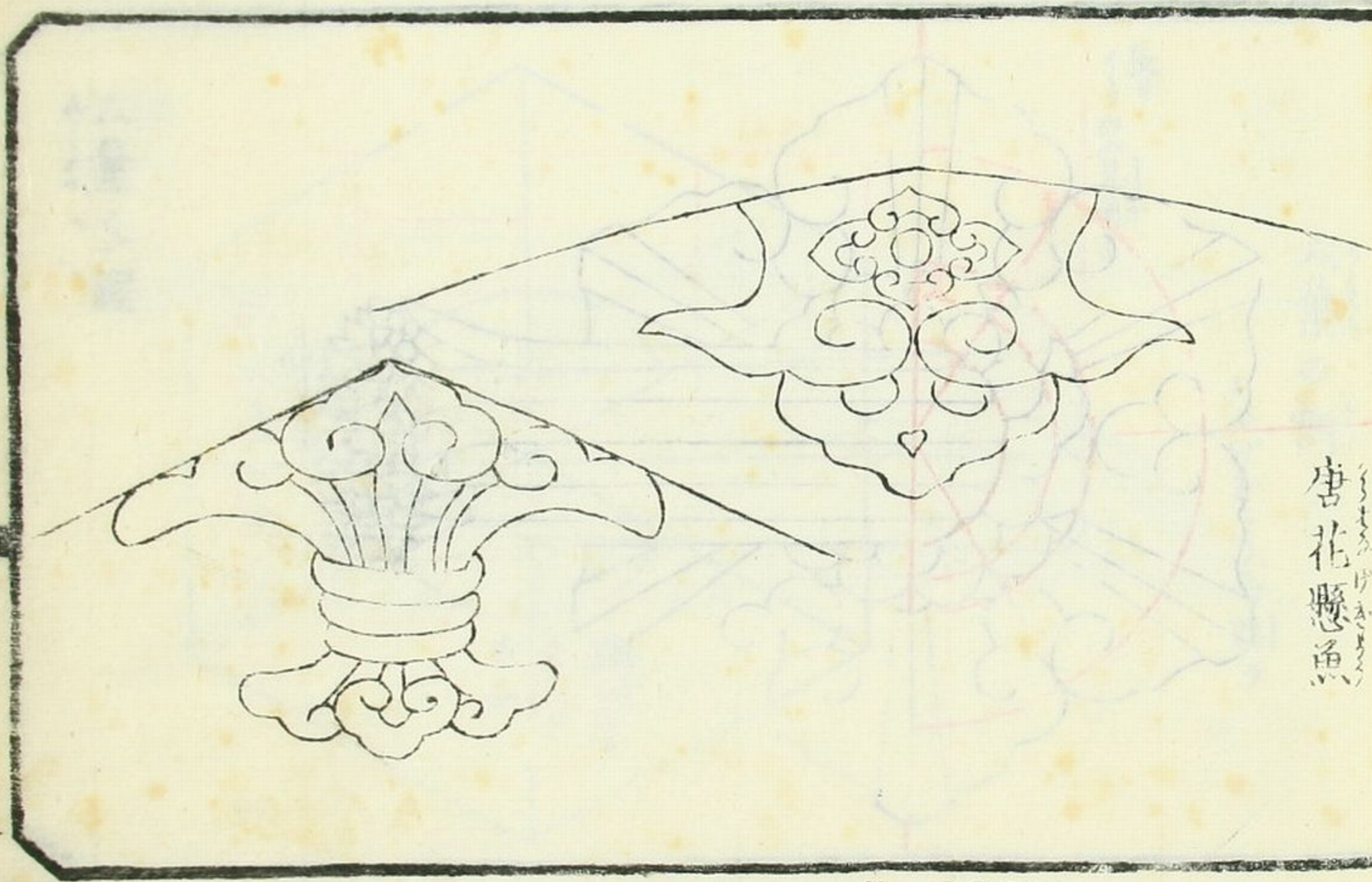


銅瓦葺月降棟之圖

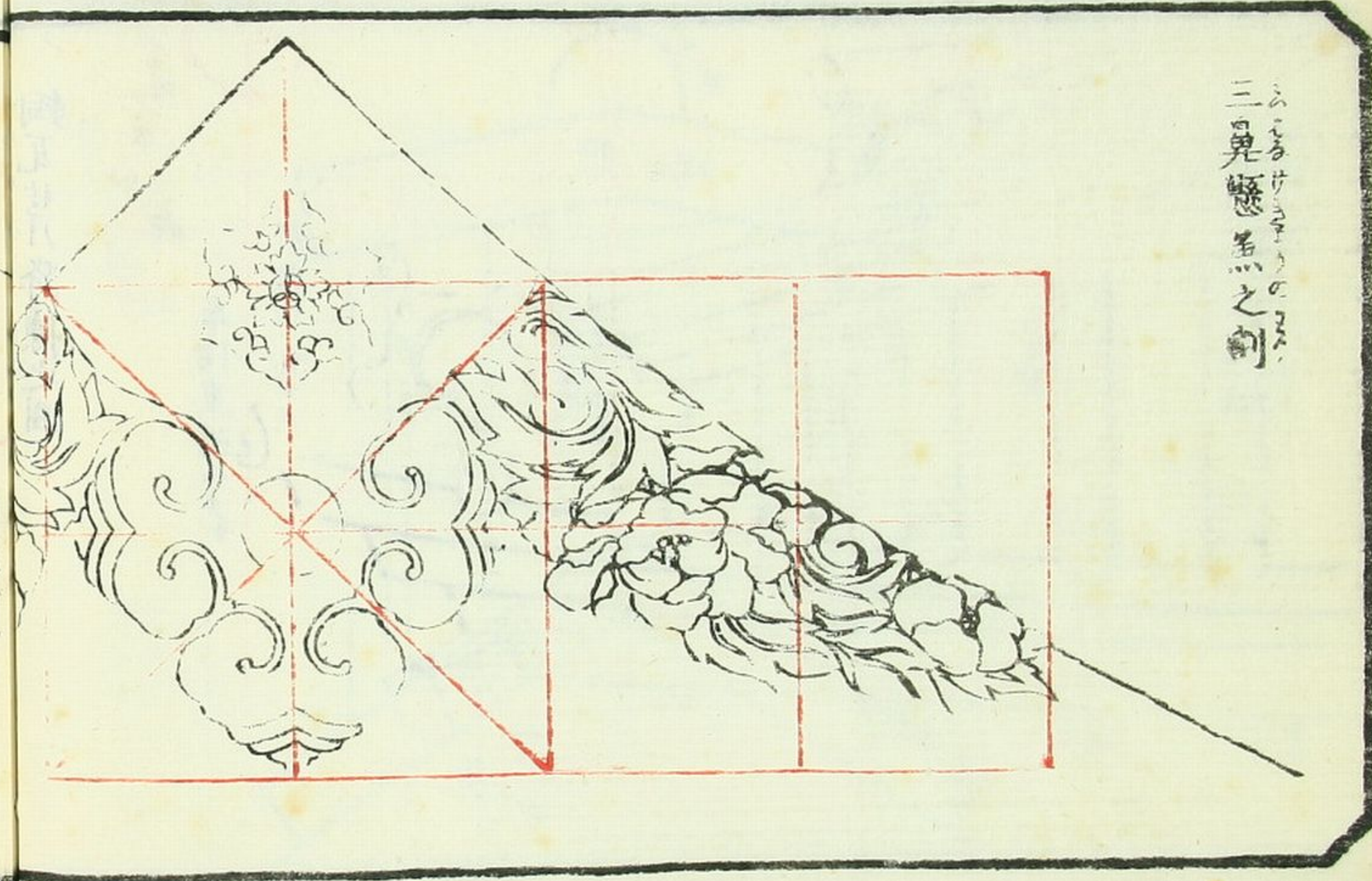


大箱棟之仕様

鬼板の一分マキ
 朱引鬼板の寸
 屋椽五割
 中ツカ
 七下カ
 上ツ割

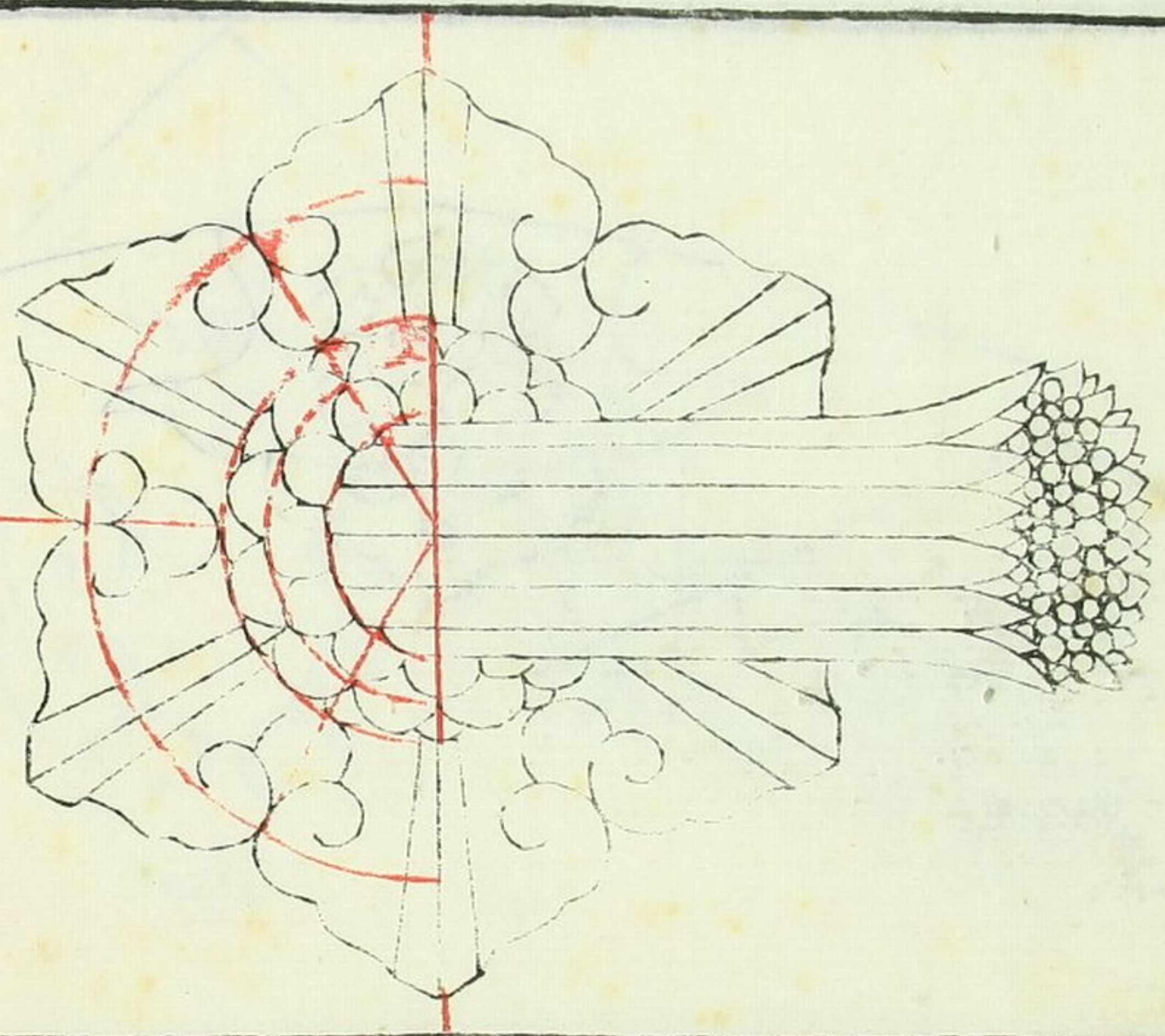


唐花懸魚



三晃懸魚之制

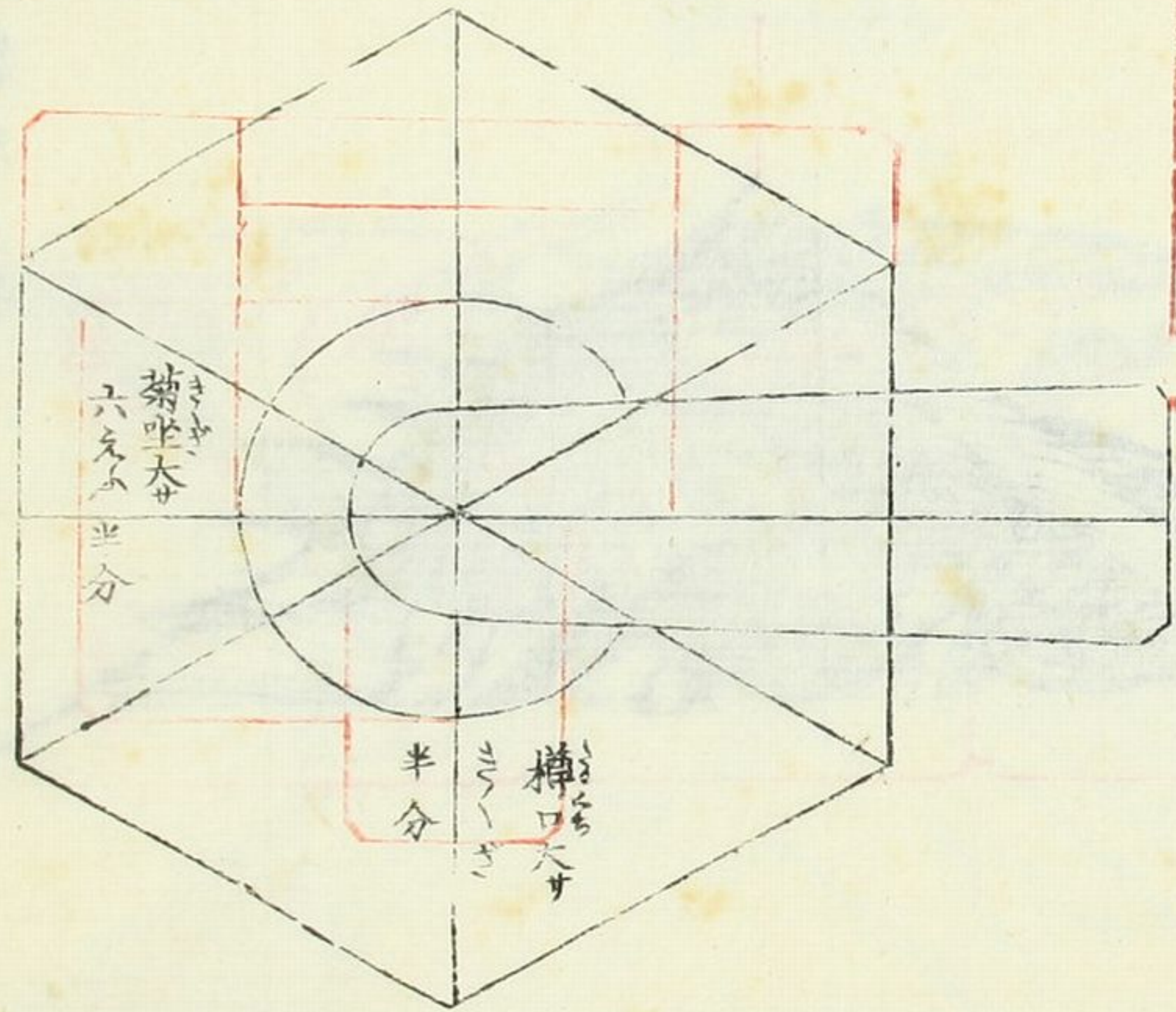
六葉之圖



六葉の割

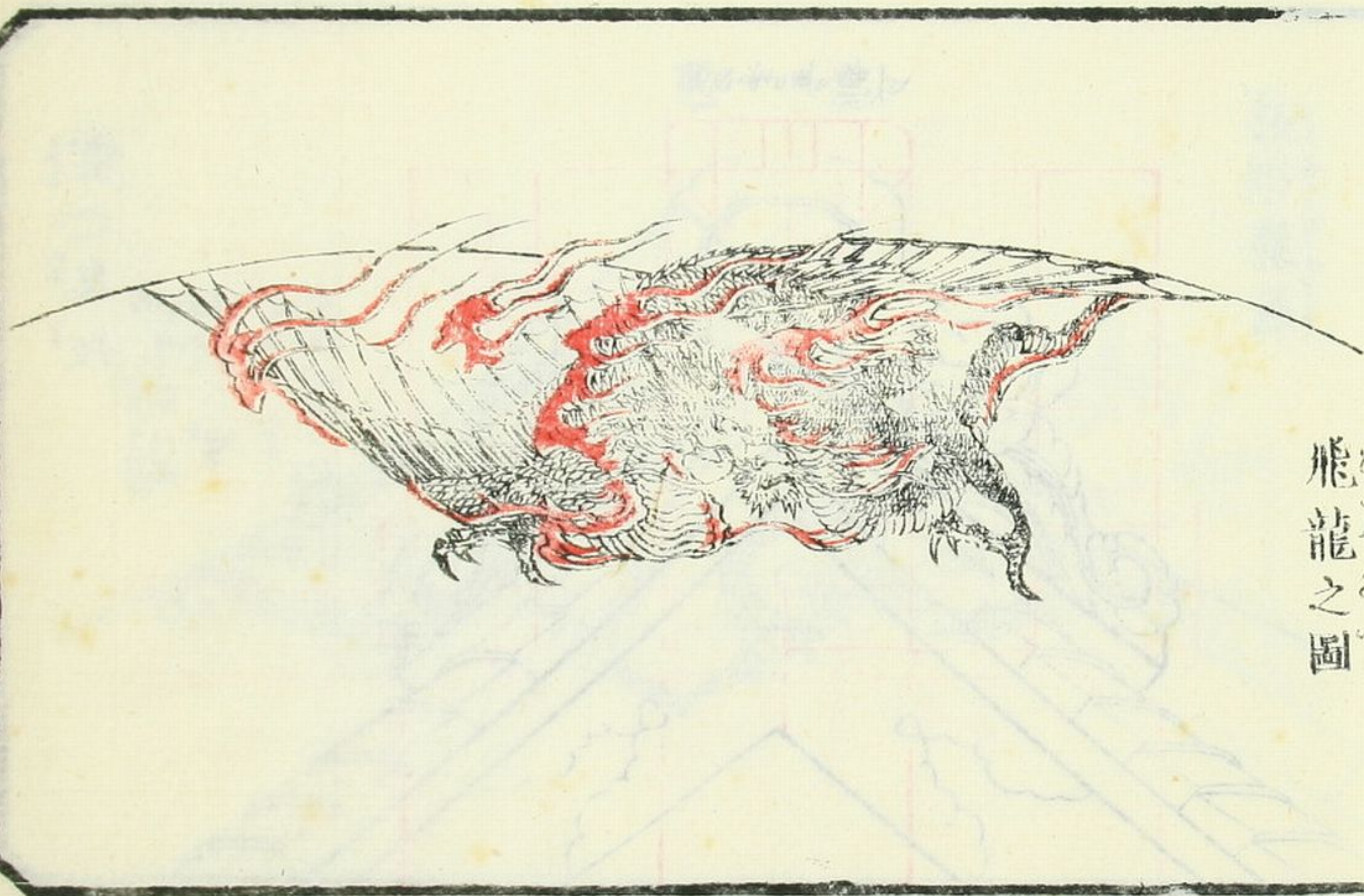
大せげきよう三割

長サ
いかに見通

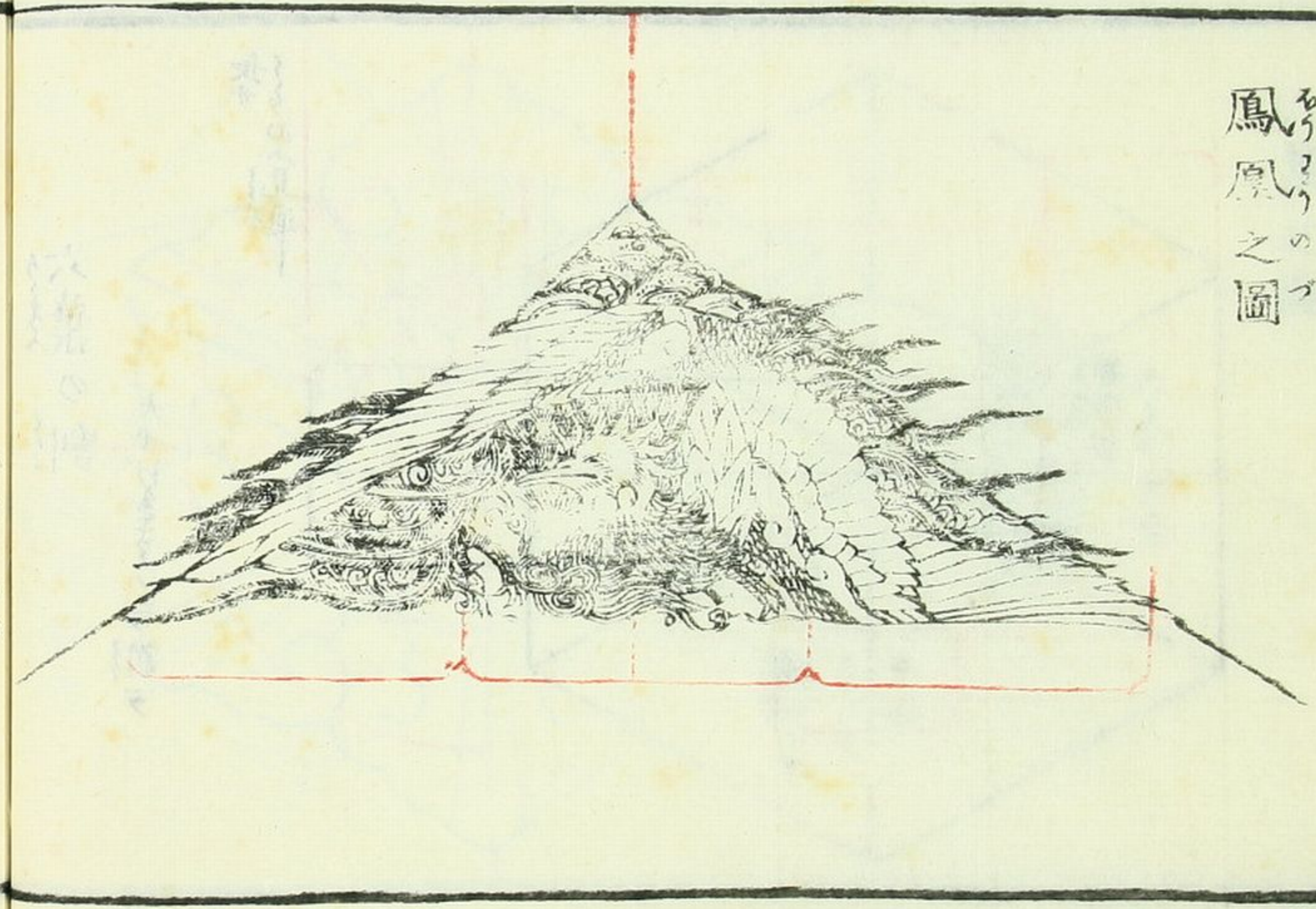


菊坐本
六えん
半分

樽口六サ
半分



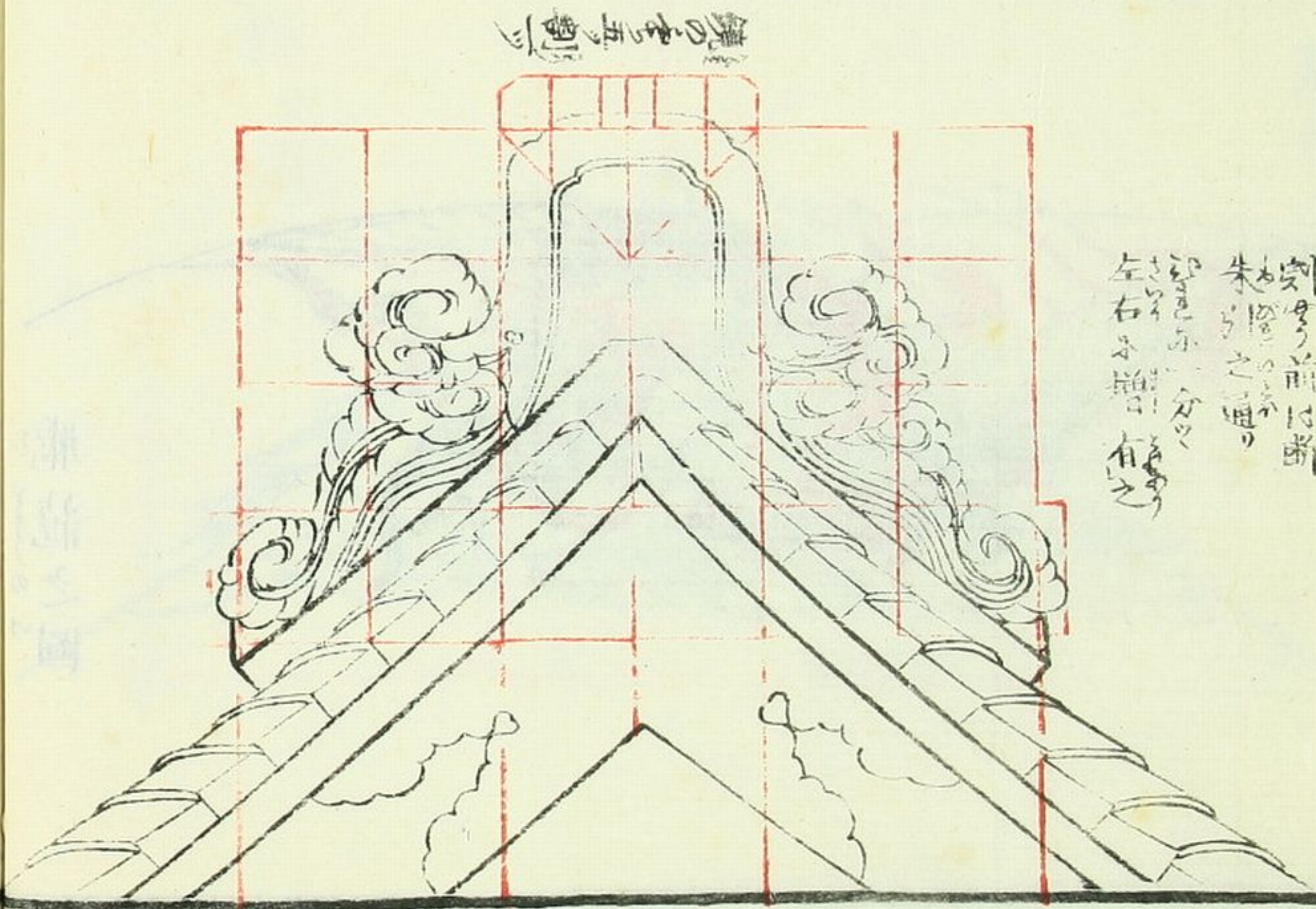
飛龍之圖



鳳凰之圖

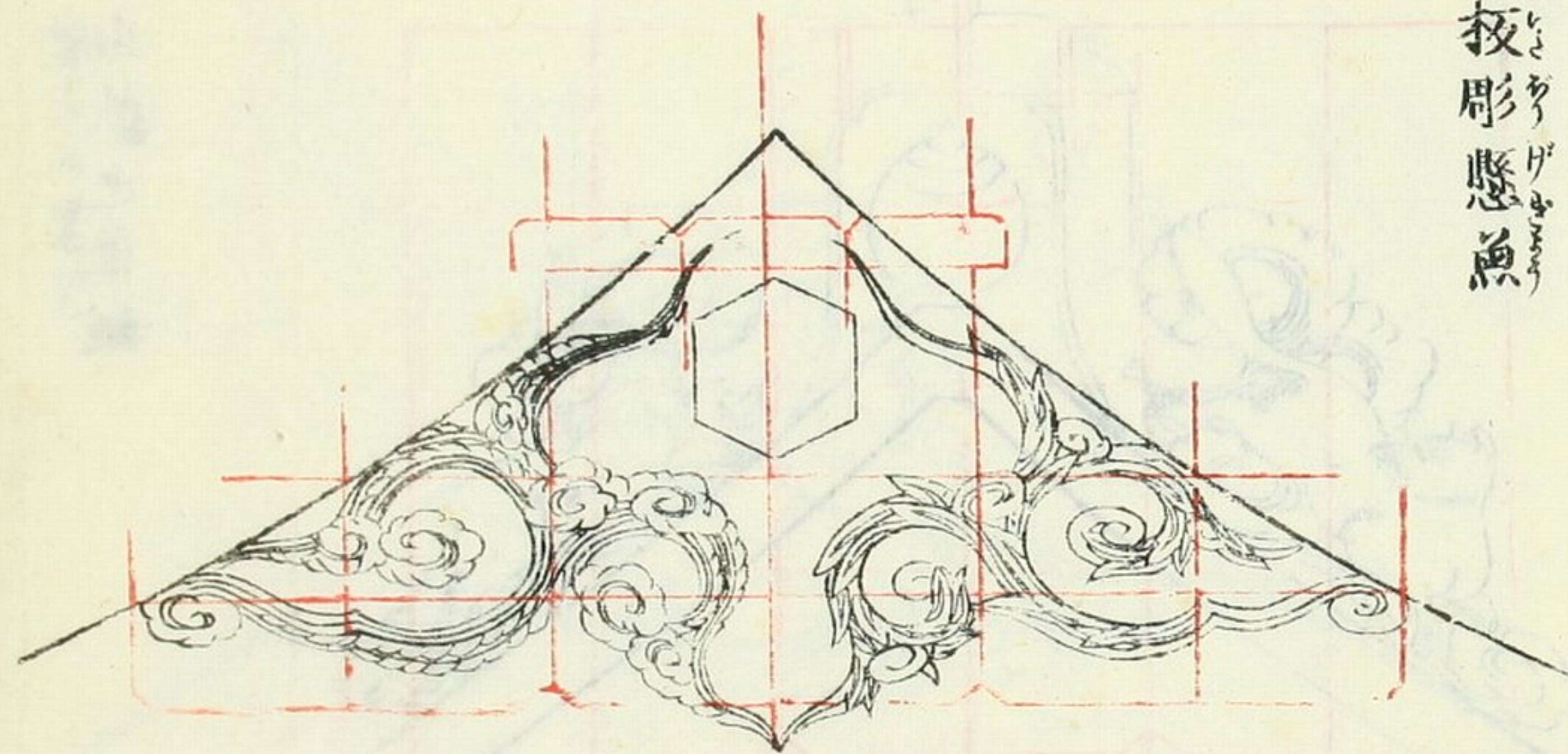
雲之鬼板

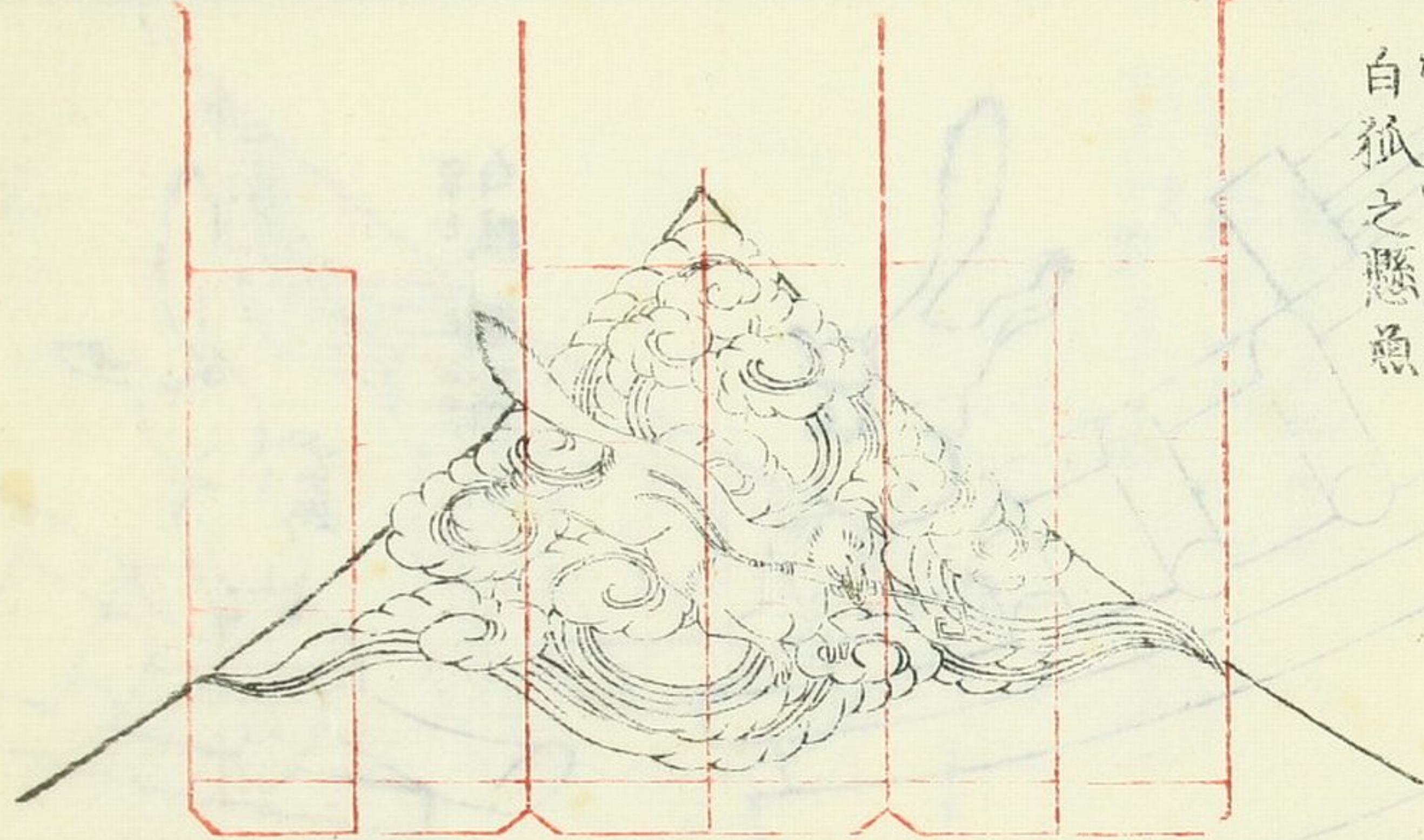
刻せり前付
朱塗之通り
左右小増有之



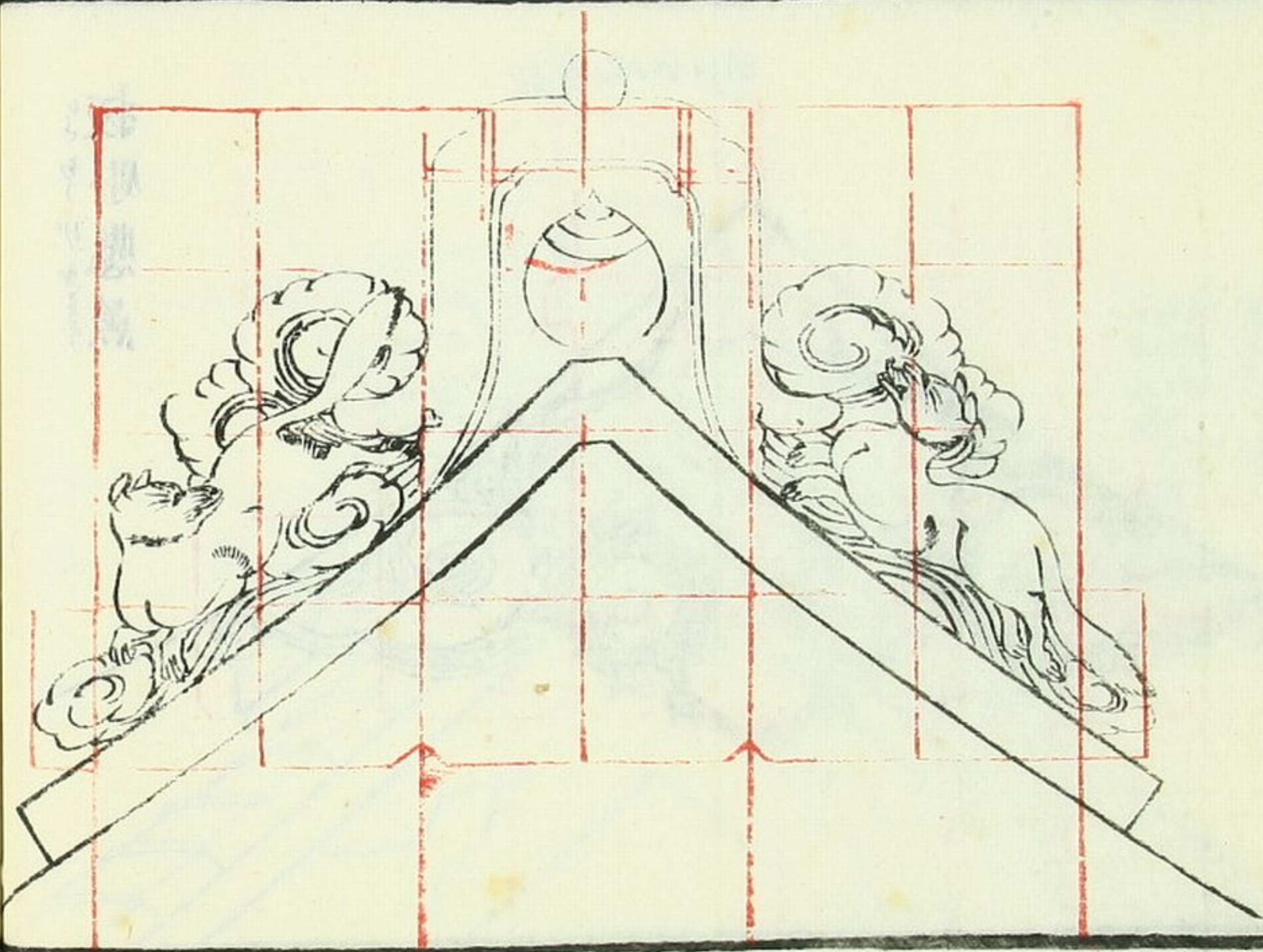
雲之鬼板

板彫懸魚



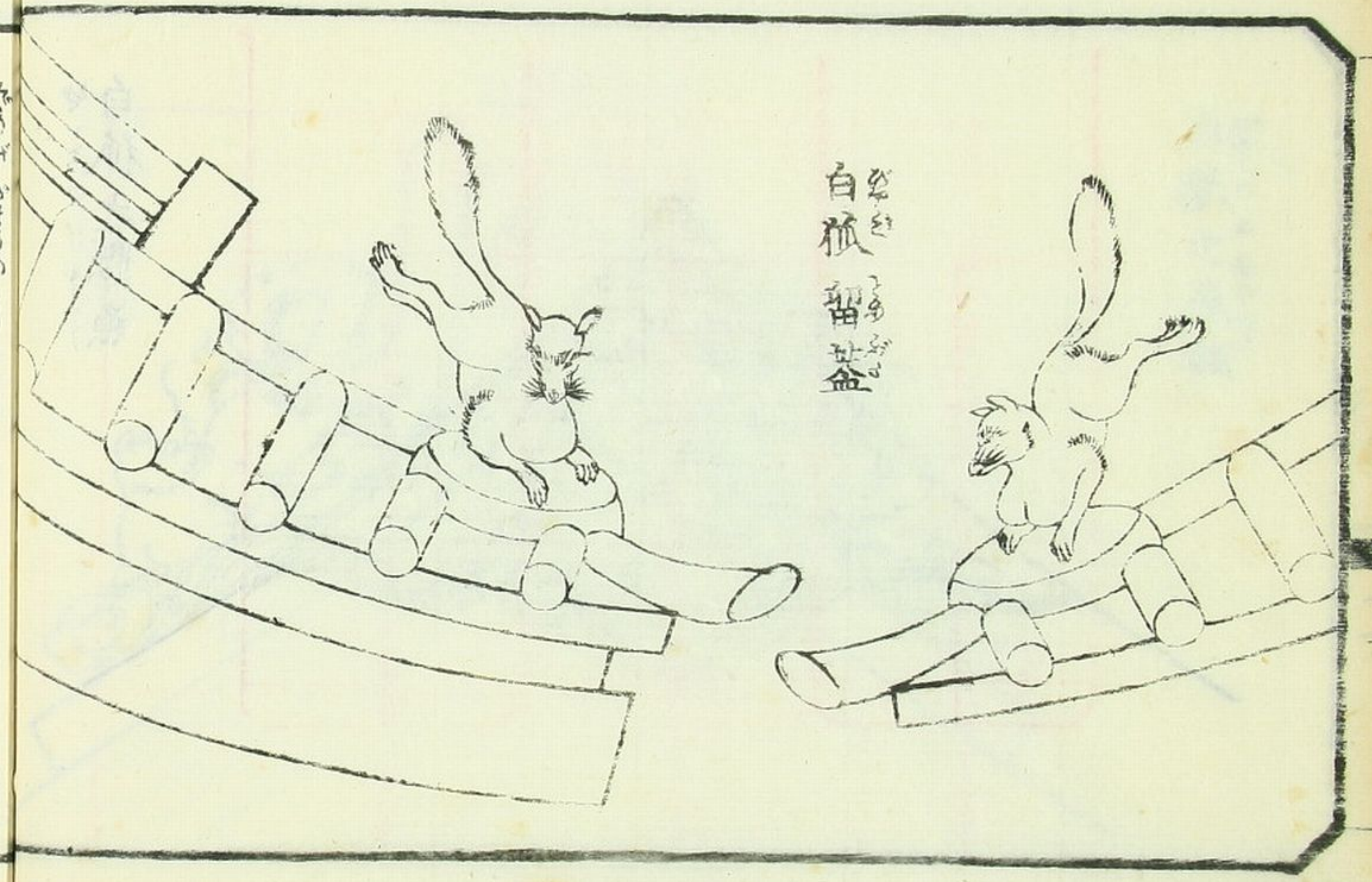


白狐之懸魚
びくこのぶきま



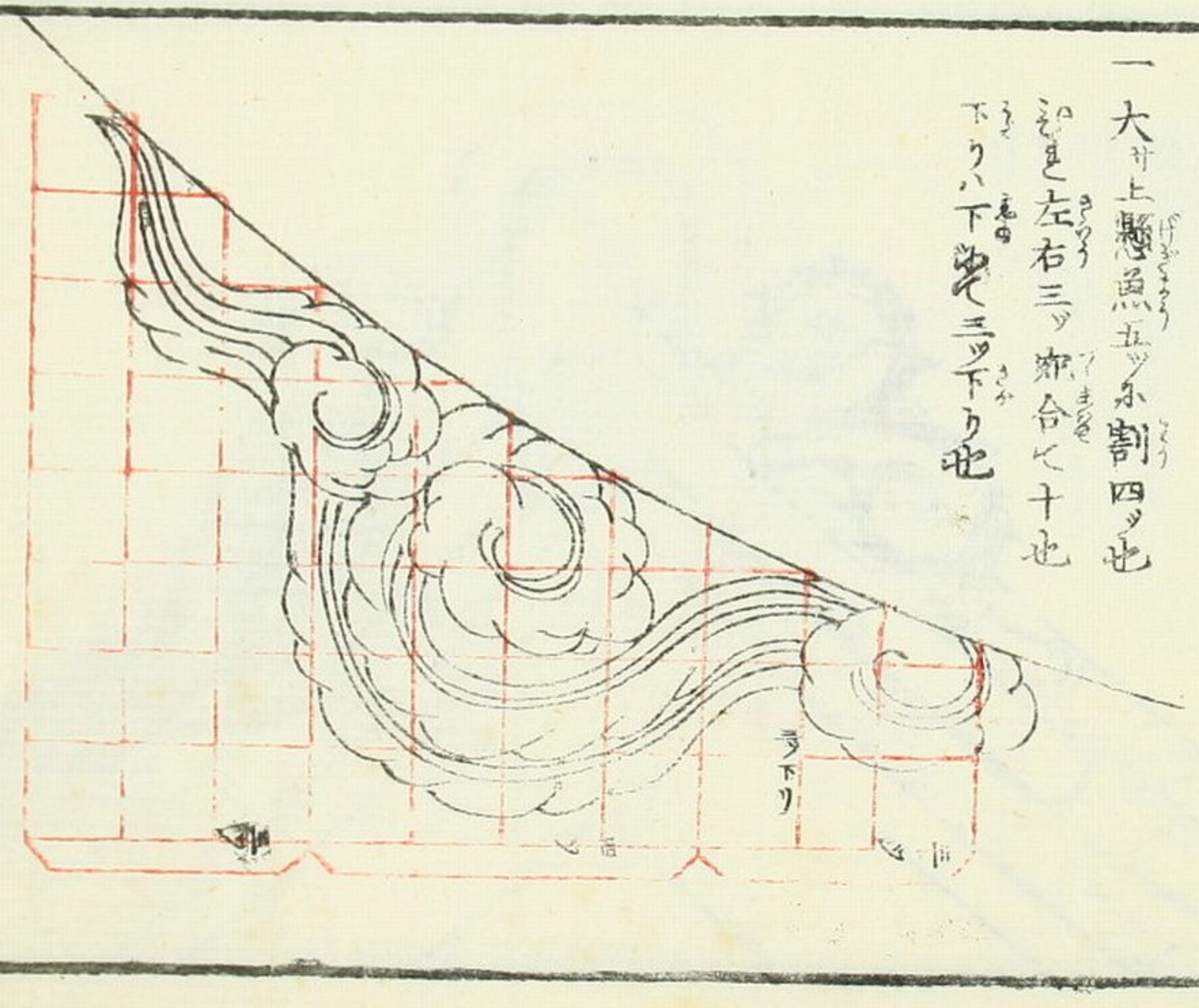
白狐之鬼板
びくこのおにいた

白狐留蓋

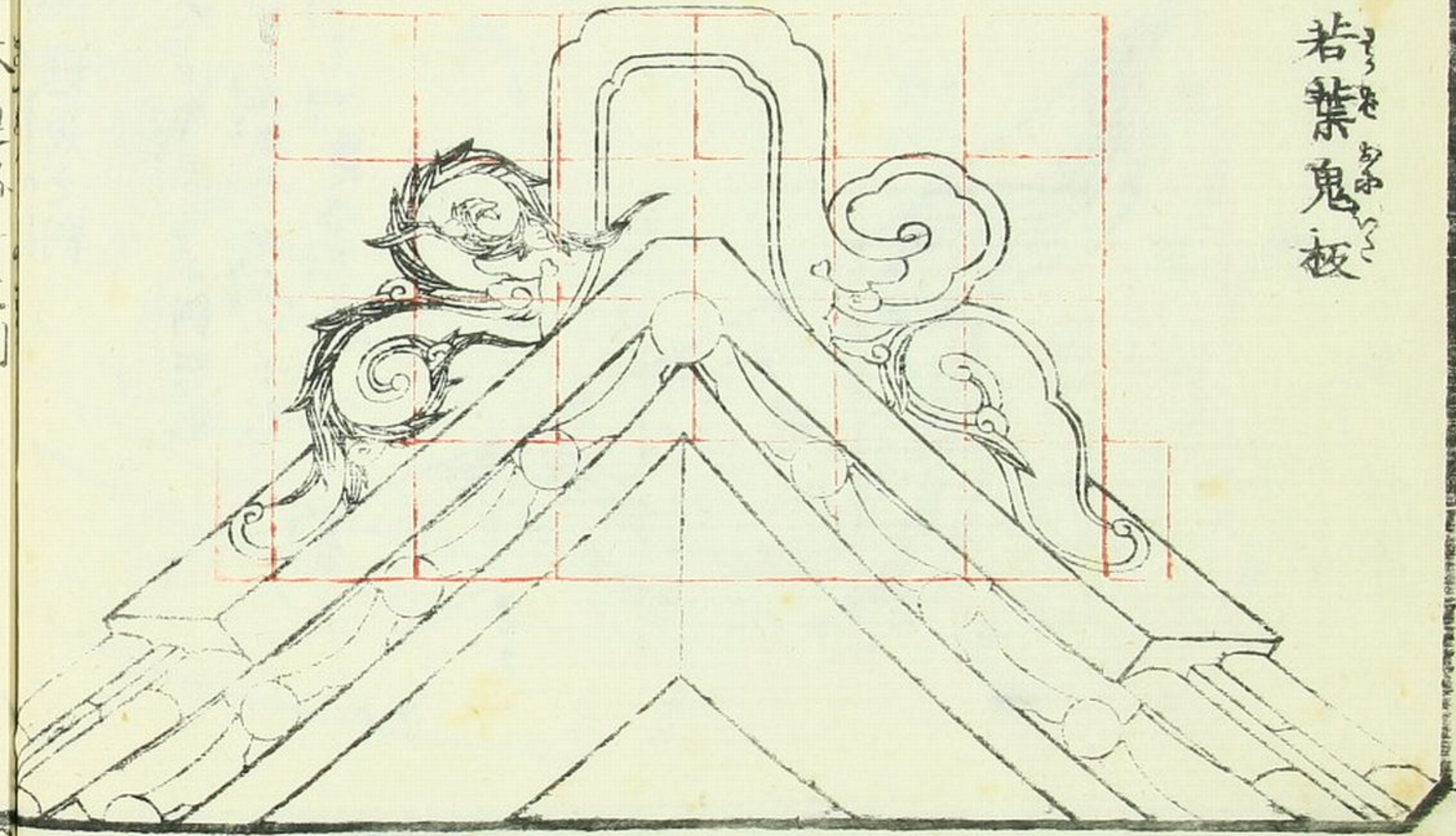


隆懸魚之割

一大并上懸魚五ツ小割四ツ也
細色左右三ツ亦合々十也
下りハ下流三ツ下り也

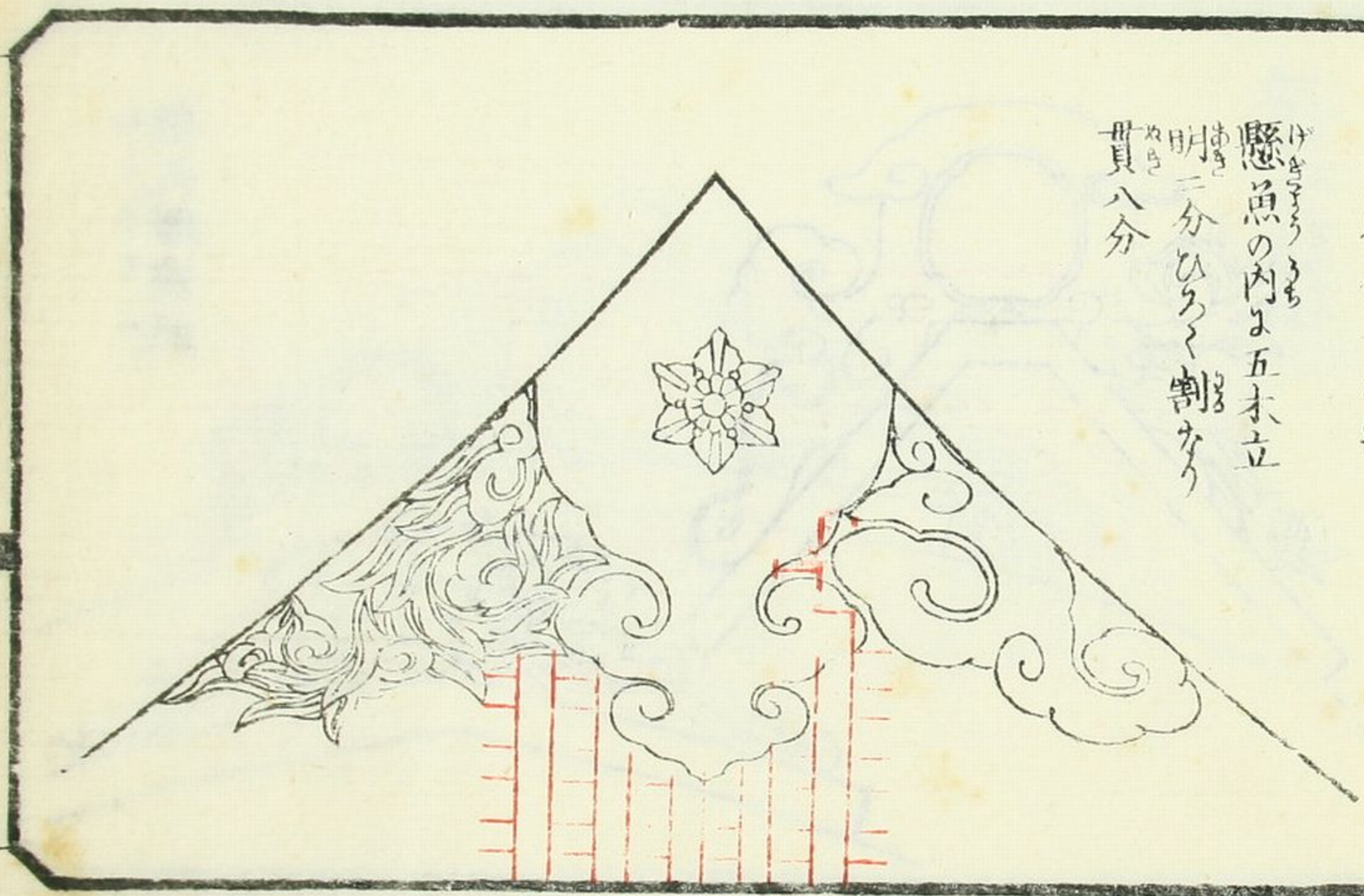


若葉鬼板

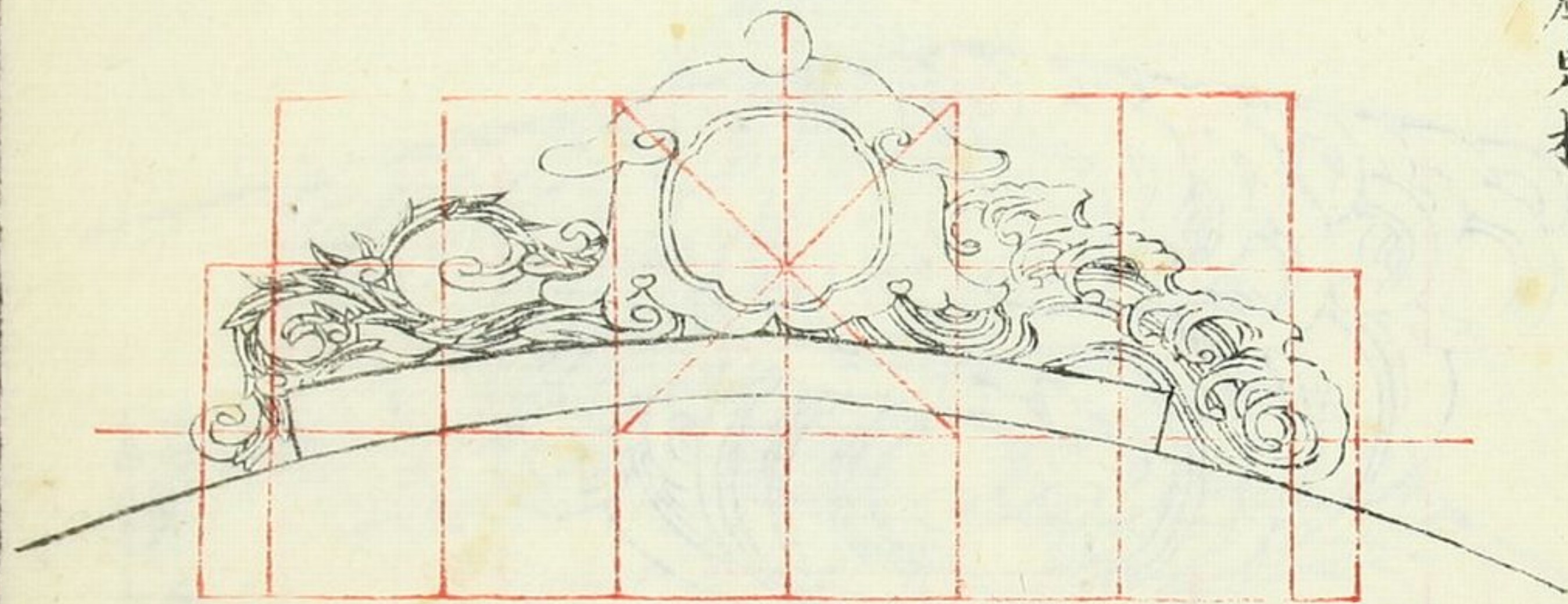


木連格子之割

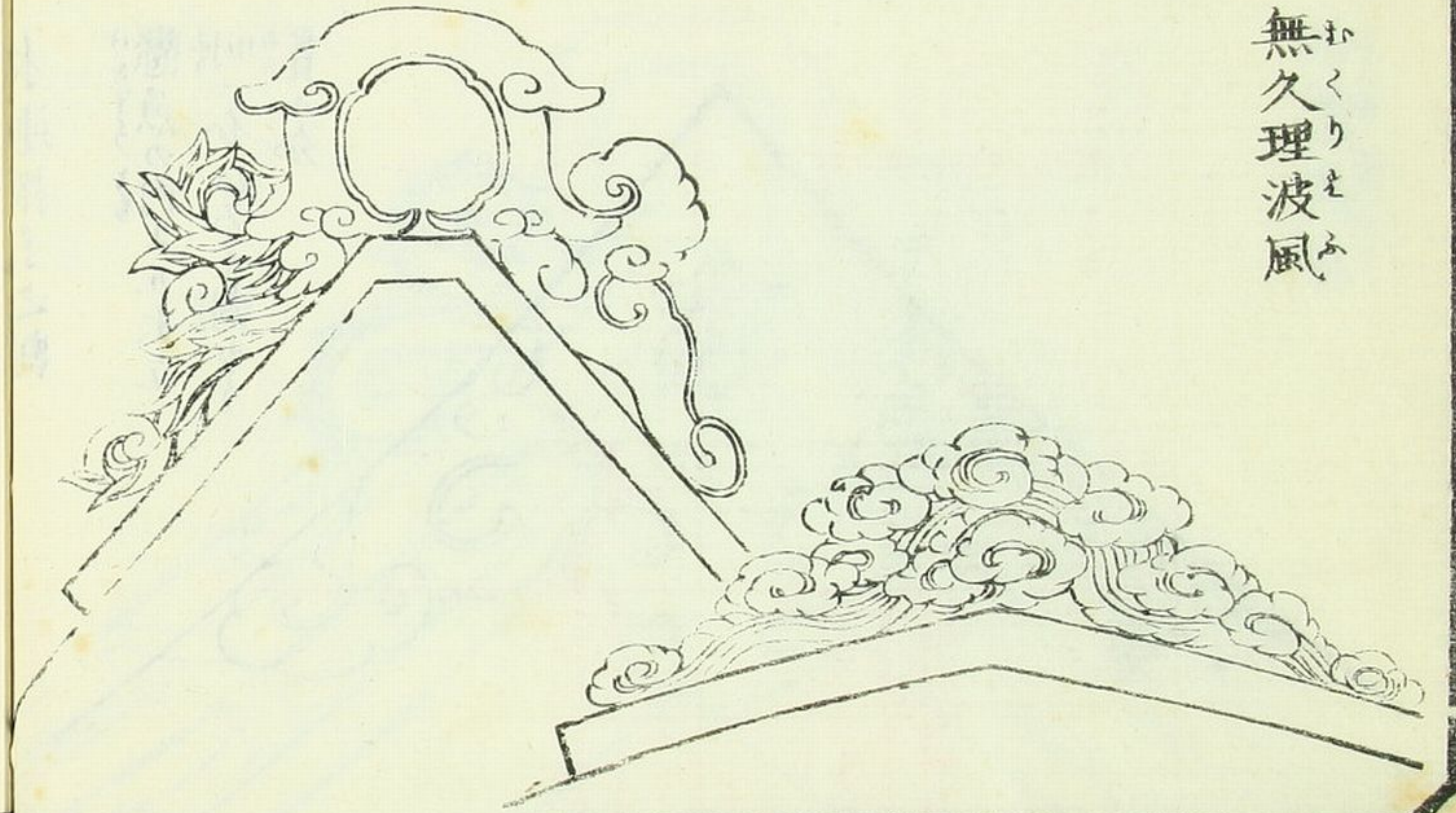
懸魚の内よ五木立
明三分ひろく割なり
貫八分



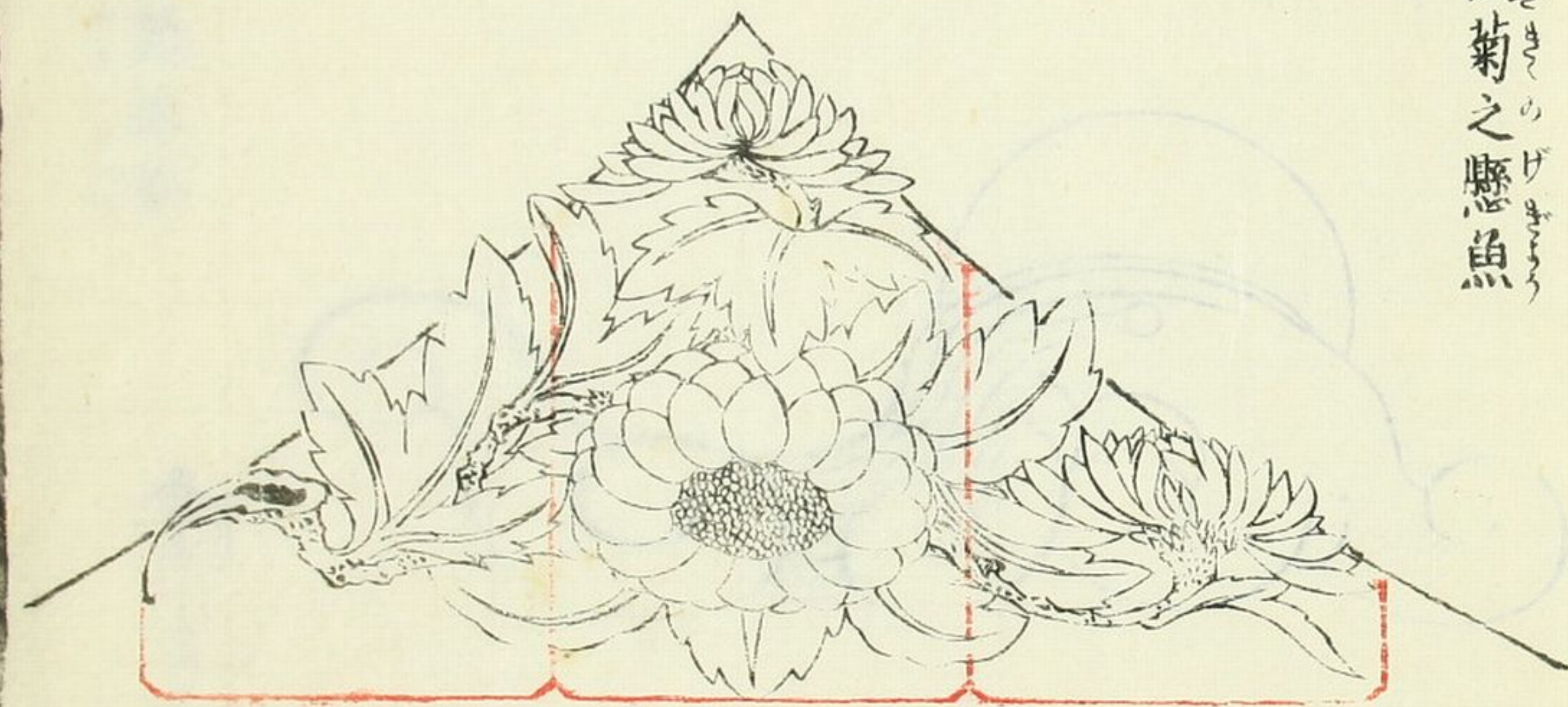
唐波風鬼板



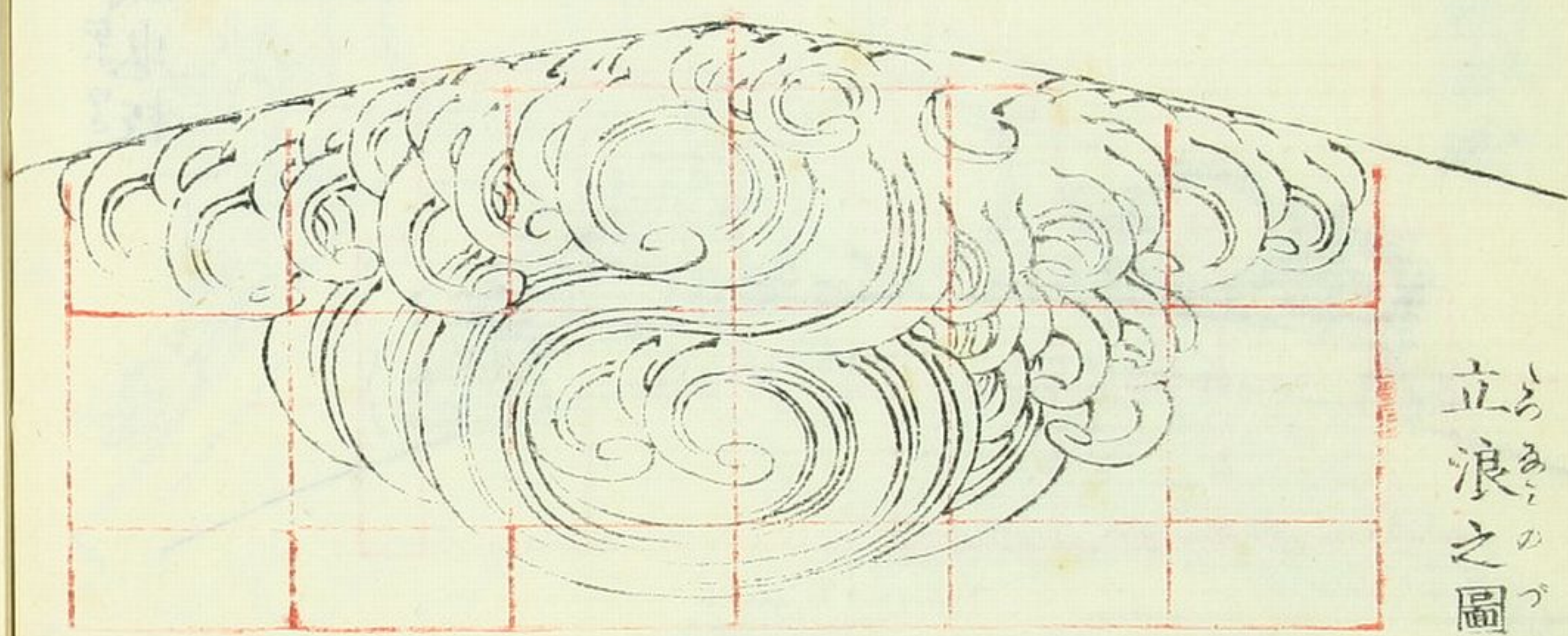
無久理波風



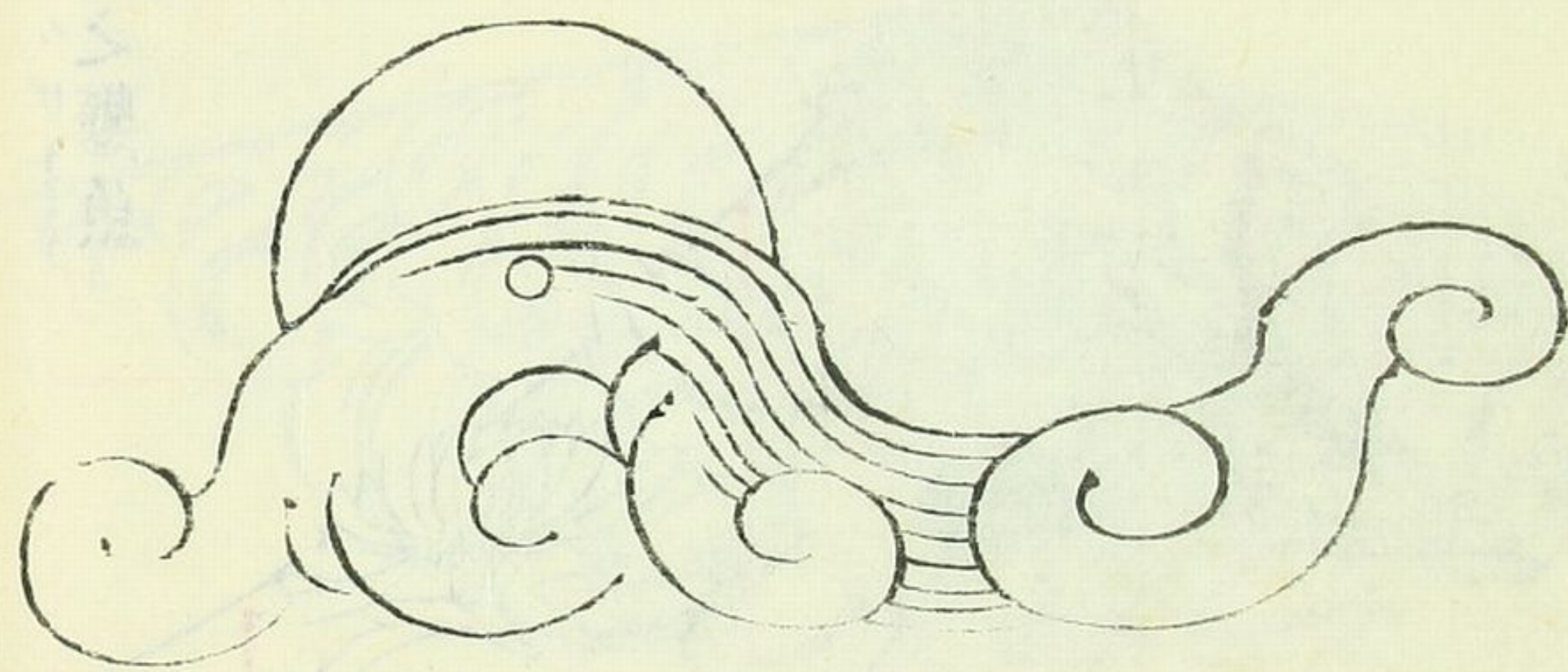
枝菊之懸魚



立浪之圖



雨龍墨壺



落合 範國圖

雨龍墨壺

